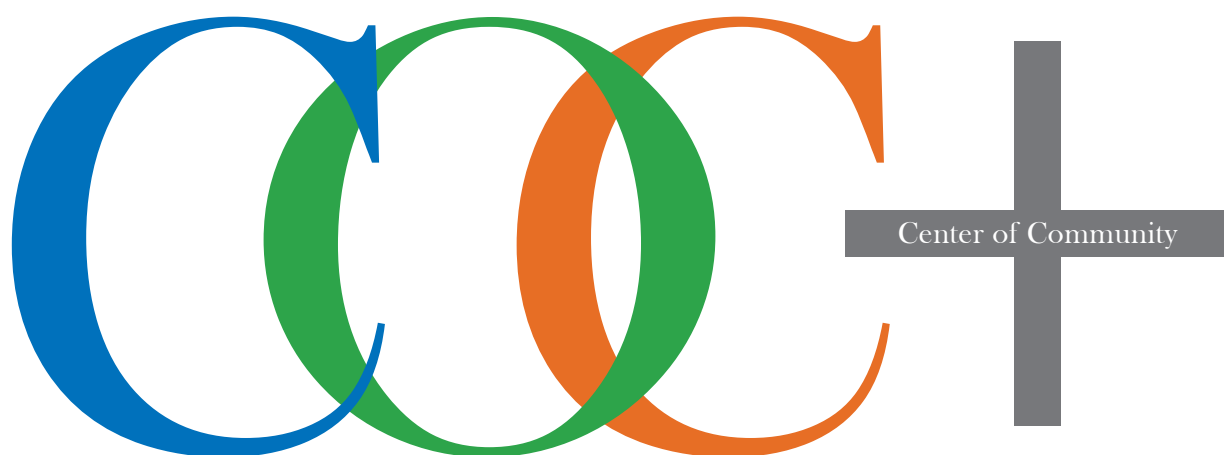


平成27年度採択

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



REPORT

平成27年度～令和元年度

金沢・加賀・能登で
地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成



いしかわ
学生定着
推進協議会



いしかわで、夢をカタチに。



平成28(2016)年1月に石川県内8つの大学と全自治体が「石川県における学生定着の取組の推進に関する協定書」を締結し、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」、いわゆるCOC+事業として本学の事業構想「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」を足掛け5年間にわたり進めてきました。石川県内の8大学、全自治体、企業・団体が「いしかわ学生定着推進協議会」を形成し、「オールいしかわ体制」により、地域で活躍する人材の養成と定着を推進するという、まさに地域創生に資する取り組みでありました。

特に、企業・団体の皆さまのご協力を得て、インターンシップを中心とした実践的教育を展開するとともに、8つの大学が連携を深めながら、大学が地域社会の存続に不可欠な存在となるよう、真の「地(知)の拠点化」を進めてまいりました。平成29年度より、石川県内の高等教育機関が加盟する大学コンソーシアム石川に「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」を設け、実践的教育のインターンシップを県内全大学へと拡大することができたことも、その成果の一つです。

本報告書では平成27年度から令和元年度における成果をまとめました。事業推進にあたり多くの関係者のご協力をいただいたことに深く感謝を申し上げます。COC+事業は令和元年度をもって終了しますが、夢と志を持ち、人間力を備えた若者が地域に定着し活躍できるよう、引き続き、「いしかわ」をフィールドとした学びを産業界や行政、地域の皆さまとともに推進したいと考えております。

関係各位におかれましては、今後ともご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

いしかわ学生定着推進協議会 会長 山崎 光悦
金沢大学長

概要

※以下、文中敬称略

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」とは？

大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業です。

「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」

自治体との先駆的連携枠組みを活用し、夢と志を持って石川県に定住し、地域(金沢・加賀・能登)リーダーとなる人材養成を実施する。これは、学生が人生において地方に住む動機付けに焦点を当て、学生が当該地域(石川県)で生きていく意義を考えや思いを巡らせ結論を出すプロセス(思考)を通じ、学生が夢と志を持って生き抜く決意を見出すため、次の3つの柱からなる「地域思考型教育」を実施し、地域を担うリーダーを養成する。



県内就業率10%向上に取り組みます。

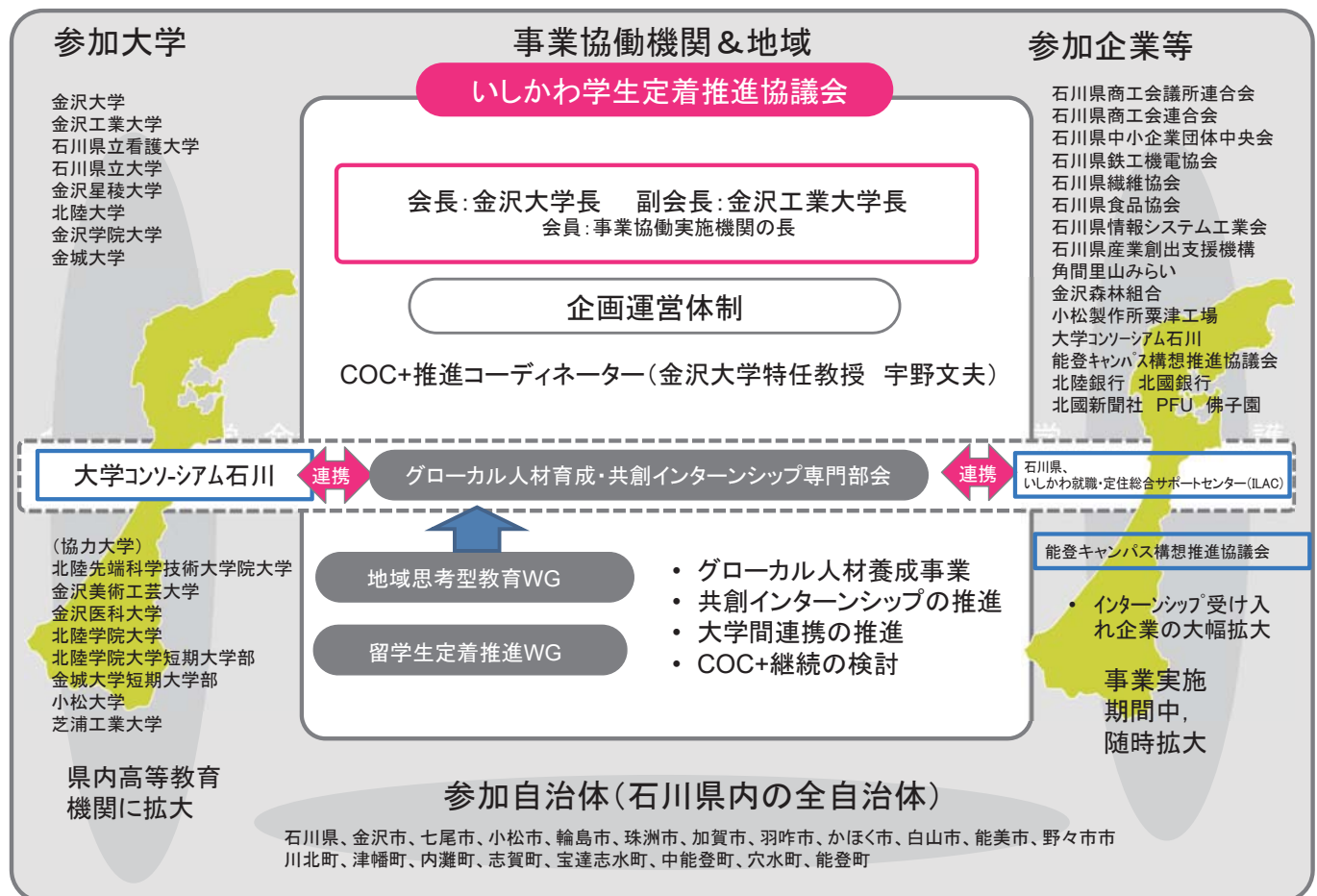
※ 平成26年度比。令和元年度までの事業目標値。

実施体制



いしかわ学生定着推進協議会

金沢大学COC+事業の一環として、平成28(2016)年1月20日、県内全自治体と8大学が「石川県における学生定着の取り組みの推進に関する協定」を締結。あわせて、県内の8大学、自治体、18の企業・団体等の連携により、「いしかわ学生定着推進協議会」が発足。**オールいしかわ体制**で石川県内の大学生をバックアップし、学生の県内定着に取り組みました。



県内有識者を集めた留学生定着ワーキンググループ(左)と、企業担当者と留学生が直接対話・交流するワークショップ(右)の様子
実施の様子(平成29年6月15日 ホテル金沢)

教員、自治体の協働による教育開発・実施のため、事業全般の調整を行う地域思考型WGと留学生の地元定着を推進する留学生定着推進WGの2つのワーキンググループを設置し、金沢大学のCOC+推進コーディネーターがその座長を務めました。これらのワーキンググループと、県内の全ての自治体・大学が参加する「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」が連携することにより、地域のニーズに合わせた地域思考教育の実現を目指しました。

CONTENTS

事業概要	2
ごあいさつ	
概要	
実施体制	
実績報告	5
1. いしかわで学ぶ未来可能性 (ICT).....	6
2. 共創インターンシップ.....	8
【1】平成28年度.....	10
【2】平成29年度.....	26
【3】平成30年度.....	43
【4】令和元年度.....	64
3. いしかわ未来アカデミー.....	80
4. いしかわ創生戦略研究所の取り組み.....	84
 メディアアーカイブ.....	 86
あとがき.....	88

実績報告

1.いしかわで学ぶ未来可能生(ICT)

石川県には、独自の歴史や文化や自然環境があり、それによって育まれた、地域の優れた産業や世界をリードする技術があります。「いしかわで学ぶ未来可能性」は、ものづくりやもてなしの風土がどのように醸成され、未来に向けどう発展していくのか、その可能性について学ぶ e-Learning 教材です。

第一章

90分

総論

日本の重要課題となっている「地方創生」。その意義や石川県における地域創生の取り組みを紹介するとともに、自分らしく、そして地域との絆(きずな)を育みながら活躍する人々からのメッセージをお伝えします。

1. 「地域創生」って何だろう
2. インターンシップという学び
3. 歴史に育まれた石川の産業の特色
4. 共創のまちづくりを目指して
5. 石川で自分らしく生きる
6. 石川の地域医療を支えて



第二章

90分

石川の自然・文化・歴史

加賀百万石の城下町が育んだ伝統文化・文学、九谷焼などの伝統工芸、そして世界が注目する「能登の里山里海の持続可能性」など、石川県の自然・文化・歴史を紹介します。

1. 加賀百万石 金沢の美の歴史といま
2. 文学と哲学を育む文化風土
3. 九谷焼、伝統と革新のアートが面白い
4. 白山の水の恵み、生業(なりわい)と先端産業
5. 地域の絆で盛り上げる能登のキリコ祭
6. 自然と共生する能登の里山里海と持続可能性



「かなざわ学さぽ」とは？



もっと「いしかわ・かなざわ」を知るには「かなざわ学さぽ」がおすすめ！

「かなざわ学さぽ」は、金沢での学生生活を入学から就職までトータルでサポートするスマートフォンアプリ。「まなぶ」「くらし」「なかま」「しごと」について学生向けのコンテンツが充実。主要機能の「学都パスポート」は、金沢市内文化施設のフリーパス(新入生限定)や、お店での特典など様々なサービスが受けられます。

提供：金沢市

いしかわで学ぶ 未来可能性 地域創生概論

第三章

90分

石川の産業

伝統工芸王国・石川を支えてきたのは、まさしく「ものづくり」のチカラです。繊維・機械・食品など様々な産業発展の原動力となり、海外からも注目を集める「石川のものづくり」を紹介します。

1. クラフト創造都市・手仕事のまち 金沢
2. いしかわのものづくりスピリット
3. 世界に拓く金沢の新しい観光
4. 世界基準のものづくり
5. 石川の食文化を支える
6. 能登のおもてなしとスローツーリズム



第四章

90分

「発想がチャレンジを生む」 石川の産業に新風を！

石川で活躍する若者や女性、企業に注目します。世界と関わり、チャレンジすることの大切さ、そしてニュービジネスの成功へのヒントなど、あなたの未来可能性を探ります。

1. 北陸新幹線開業と石川のベンチャービジネス
2. 女性が活躍する石川
3. 世界に伝えたい伝統工芸の技と心
4. 企業と大学・学生が取り組むニュービジネス
5. 石川の新しい農業スタイル
6. 能登の第一次産業を支える若者たち



〈成果〉

いしかわで学ぶ未来可能性(ICT)は、金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学で学ぶ学生の必修教材として活用しました。

本教材は学生にとって、能動的に地域を学び関心を向けるきっかけになるように設計し作成しました。

金沢大学では、新入生の必修科目である「地域概論」で活用しました。

「地域概論」は、学類と地域・社会との繋がりを理解し、地域・社会への関心の向上及びキャリア形成を促進することを目的とする科目で、各学類がその特性に合わせてプログラムを組んでいます。ICT教材の活用により、石川県という地域の特性等を理解し、地域と学びとキャリアを総合的に考える科目となっています。

〈波及効果〉

8大学の必修教材として活用するだけでなく、ICT教材の特徴を活かして、社会人にも開放することにより、石川県にU・Iターンを希望する社会人等を中心に、いしかわファンが増え交流人口の拡大にもつながりました。

2.共創インターンシップ

いしかわで夢と志を持って活躍する人々と行動しながら、地域の魅力や課題を発見し、多様な生き方を実感するインターンシップです。人々との交流を通じてさまざまな価値観や人生観に触れることは、より柔軟で自由な発想をもたらし、自身の新たな可能性や生き方に気づききっかけとなります。

Phase 1 / 気づく

先輩の夢から自身の“わくわく”に気づく 「出会っていいんじゃないプロジェクト」

夢に向かって生きる先輩との交流により、その志や信念、生き方を間近で感じることで、自分と向き合い、自身の中にある興味や“わくわく”（キャリア形成の基盤となる原動力）を探ります。

STEP 1 好きなことを生業にした「先輩」との交流から、その夢や志に出会う



大学で偶然始めた狂言に魅了されてその道に飛び込んだ先輩から、恩師との出会いや狂言に対する思い、人生について尋ねました。

STEP 2 先輩の話をきっかけに、自分の“わくわく”を探る



学生のコメント

ワークを通して、自分の興味や忘れてかいていた夢、素直な心を再発見。

一歩踏み出さずにはいられなくなる自分と出会う

Phase 2 / 考える

地域の人々との対話から多様な生き方を考える 「I LOVE いしかわ学生創出会議」

“いしかわ”をフィールドに「夢」と「志」を持って活躍する社会人（＝地域サポーター）から地域に根差した多様なライフスタイルについて話を伺い、自分の将来の可能性を広げます。

STEP 1 地域サポーターと学生が一同に会し、夢や志を共有する



地域サポーターや学生が参加。8つのグループに分かれ、ユニークな活動を理解するとともに、その志に触れました。

STEP 2 地域サポーターの活動フィールドを訪れ、サポーターの地域への思いや魅力に触れる



中能登トレイルランで地域を盛り上げる地域サポーターから説明を受けながら、実際のコースを辿りました。

地域サポーターとの出会いから、自分の可能性が広がる

地域の魅力を知る＆自己理解を深めるイベントも開催しています

いしかわの魅力発見バスツアー （能登町、七尾市、南加賀）

2018年7月実施

地域特有の豊かな自然や伝統文化に触れるとともに、地域で活躍する人の夢や志を伺い、地域理解を深めました。

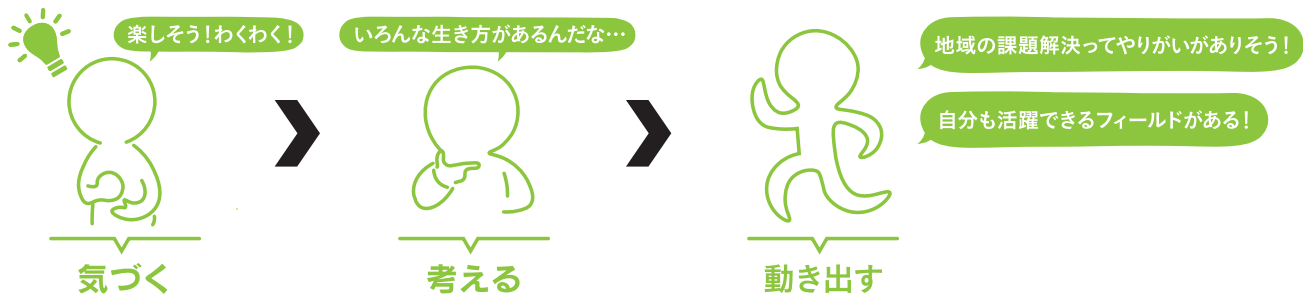


キャリア講演会 「自分の働く姿を考える」

2019年3月実施

人材育成のプロフェッショナルや本学OBの講演を通して、いしかわで活躍する学生と保護者が共に「自分らしく生きること」について考えました。





Phase 3 / 動き出す

自分の“わくわく”で動き出す「共創インターンシップ」

いしかわで活躍する地域サポーターの下で、人々の暮らしや生き方に触れ、地域の課題に自分事として向き合い、挑戦します。



輪島市

- ・「漆の里・生涯活躍のまちづくりプロジェクト」における住民調査



志賀町

- ・起業を目指す学生のための稲作農家インターンシップ



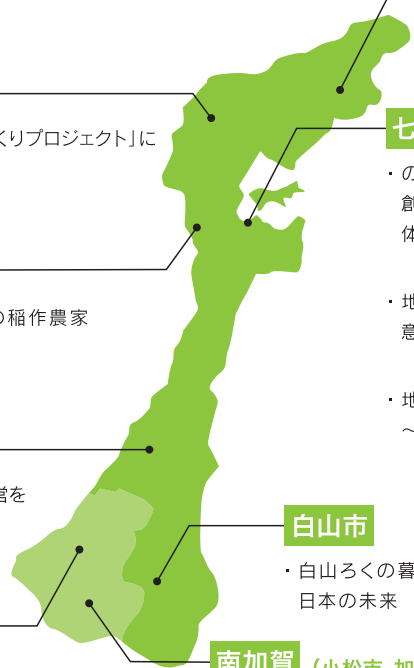
金沢市

- ・地域交流イベントの企画・運営を通じた社会福祉施設の理解



小松市

- ・地域経済を支える商工会議所の役割を体験



能登町

- ・能登の産業を支える鍛冶職人が挑戦するビジネス戦略の理解



七尾市

- ・のと共栄信用金庫の金融、創業支援等戦略的業務の体験・理解



- ・地域課題解決のための住民意識調査(鉾田地区)



- ・地域資源を活かした魅力調査～マップ作り～(鉾田地区)



白山市

- ・白山ろくろの暮らしと地域資源から考える日本の未来



南加賀 (小松市、加賀市、能美市、川北町)

- ・南加賀のインバウンド観光促進に係る解決策の調査



いしかわには活躍できるフィールドとサポーターがいる、一歩踏み出してみよう!

参加学生の声

「I LOVE いしかわ学生創出会議」参加



地域サポーターの生き様のようなものが素敵だと思った。能登の素敵な風景が見られて感動した。自分に自信を持つために行動しようと思った。

輪島市共創インターンシップ参加



地域住民へのヒアリングでは、地域の現状や課題が分かり、よりよいまちにしたいという住民の方々の思いを肌で感じる事ができた。

白山市共創インターンシップ参加



想像以上に地方では少子化が進んでいる一方で、地域の課題を解決しようとする若い人たちがいて希望があると感じました。

2.共創インターンシップ

【1】平成28年度

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
1 出会っていいんじゃないプロジェクト	第1回出会っていいんじゃないプロジェクト (地域の伝統文化の持続・発展で活躍する若者)		10月15日	35
	第2回出会っていいんじゃないプロジェクト (地域の伝統文化の持続・発展で活躍する若者)		12月10日	31
2 I LOVE いしかわ学生 創出会議	1 I LOVE いしかわ学生創出会議 (北陸先端科学技術大学院大学 マッチングHUB)	金沢大学	11月2日	76
	第1回I LOVE いしかわ学生創出会議		12月11日	69
	2 第2回I LOVE いしかわ学生創出会議 in 金沢		2月26日	25
	第2回I LOVE いしかわ学生創出会議 in 能登		3月26日	19
3 共創インターンシップ	1 KITインターンシップ・プロジェクト (共和電機工業株式会社)	金沢工業大学	7月29日 ～9月16日	28
	2 KITアイディアソン&ハッカソン2016		8月6・7日、 9月16・17日	207
	3 地元企業合同研修プログラム (MaTEプロジェクト)		8月19日 ～翌1月31日	200
	4 組織開発リーダーシップ講座		9月14日	18
	5 野々市市創業塾		11月19・26日、 12月3・10日	17
	6 株式会社北國銀行×金沢工業大学連携事業 リーダーシップ力育成プログラム		12月9日 ～3月10日	41
	7 企業及び地方自治体におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ	石川県立看護大学	4月12日 ～11月28日	249
	8 ハイディーファイナリーでのインターンシップ	石川県立大学	9月1～3日	3
	9 就職活動に向けて農業法人及び六次産業化の 実際を学ぶ		1月25日	45
	10 奥能登国際芸術祭での作品展開の候補地の調査及び提案書の作成	金沢星稜大学	8月8～12日、 11月13～19日、 11月30日	5
	11 のと共栄信用金庫の環境金融、創業支援等戦略的業務の体験・理解		8月29日 ～9月2日	7
	12 加賀地域における観光資源の発掘と着地型旅行商品の提案		8～9月	24
	13 観光交流に向けた商品開発と地域資源の再評価と活用するための人材育成		9月17～21日	4
	14 Ishikawa 明日リート応援プロジェクト	北陸大学	2月14日	216
	15 株式会社芝寿しの新商品開発調査	金沢学院大学	4月23日 ～11月22日	5
	16 夏休み集中ガイダンス		9月13～16日	106
	17 介護・福祉現場体験型インターンシップ開発準備	金城大学	—	—
4 その他連携				3,242
合 計				4,672

1 出会っていいんじゃないプロジェクト

目的

夢に向かって生きる先輩との交流により、その志や信念、生き方を間近で感じることで、自分と向き合い、自身の中にある興味や“わくわく”(キャリア形成の基盤となる原動力)を探ります。

出会っていいんじゃないプロジェクト(地域の伝統文化の持続・発展で活躍する若者)

金沢大学

I 第1回出会っていいんじゃないプロジェクト

in 金沢学生のまち市民交流館 10月15日

出席者

35人(学生25人、講演者1人、その他9人)

実施概要

●10:00 - 11:45 狂言を体験してみよう

「地域のレジェントと出会う」

“楽しい”ことはやめたくない～狂言に出会って～

狂言師:中尾史生

●12:00 - 13:00 金沢交流ランチ

「おいしさに出会う」

金澤らしい食事に出会う

●13:15 - 15:45 わくわくワークショップ

「自分のわくわくに出会う」

グループワークを通して自分の秘められたわくわくを発見、新しい自分に出会う

結果・成果

講師の話をきっかけとして、自己理解を深めるきっかけ作りとなった。

また、他人と話をすることの楽しさを体験する場となった。



II 第2回出会っていいんじゃないプロジェクト

in 金沢学生のまち市民交流館 12月10日

出席者

31人(学生20人、講演者1人、その他10人)

実施概要

●12:00 - 15:00 わくわくワークショップ

「自分のわくわくに出会う」

グループワークを通して自分の秘められたわくわくを発見、新しい自分に出会う

「地域のレジェントに出会う」

地域の伝統芸能に出会う

講師:佳丸(荒川志乃)

●15:00 - 16:00 和菓子で一息、おしゃべりタイム

「おいしさに出会う」

今日ここでしか味わうことのできない和菓子。和菓子との「一期一会」!



2.共創インターンシップ

【1】平成28年度

■ 結果・成果

講師及び参加学生の話聞くことで、自分の考え方を再認識、あるいは今まで気がつかなかった側面を認識することができ、将来選択の幅を広げる一助となった。

2 I LOVE いしかわ学生創出会議

目的

“いしかわ”をフィールドに「夢」と「志」を持って活躍する社会人(=地域サポーター)から地域に根差した多様なライフスタイルについて話を伺い、自分の将来の可能性を広げます。

1 I LOVE いしかわ学生創出会議(Matching HUB Kanazawa 2016版)

金沢大学

in ホテル日航金沢 11月2日

若者の熱量を地域企業のエンジンに！～「わくわく」した気持ちをどう活かすか～

■ 出席者

76人

発表者	若手社員	2人
	学 生	4人
	パネリスト	4人
	聴講申込数	66人



■ 実施概要

15:30～17:00

●第1部

学生と若手企業人による講演:学生4名、若手社会人2名

「わくわくした想い、自分と地域への思いを語る」

学生4名、若手社会人2名から自己紹介

発表者が名前、所属、話(タイトル)のポイントを観客にPRし、観客が詳しく話を聞きたい発表者を選び、6つのグループに分かれた。

それぞれのグループで発表者が子ども時代のエピソード、自分のわくわくする思い、地域への思い、社会への思い、未来への思いを語った。

●第2部

「学生、地域、企業、大学職員の本音トーク」

第1部の発表を受け、若者をどのように組織に活かして活性化できるかを探るパネルディスカッションを実施した。

パネリスト

- ・企業 2人
- ・行政 1名
- ・大学職員 1名
- ・コーディネーター 認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山あつこ



■ 結果・成果

若者のわくわくをどのように組織に活かして活性化できるかを企業・自治体・大学各々の立場から意見を発し情報共有する場となり、今後の連携に向けての弾みとなった。

2 I LOVE いしかわ学生創出会議

金沢大学

I 第1回I LOVE いしかわ学生創出会議

in しいのき迎賓館(セミナールーム A・B) 12月11日

■ 出席者

69人

学生	40人
地域サポーター	16人
自治体	4人
その他	9人

■ 実施概要

●1部 12:30-14:00 地域サポーターセミナー

「学生との楽しいフリートーキングをするためのコツ」

～一番伝えたいことを言葉にする～

講師:認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山あつこ

学生と地域をフィールドにしたわくわくプロジェクトを実施するためのファシリテーション方法について意見交換を行った。

●2部 14:15-17:00 地域サポーターの想いを聴く

8グループに分かれ、地域サポーターが実施している取り組み内容とその取り組みに対する想いを聞いた。

1グループ:地域サポーター2名 学生4～5名 自治体関係者等数名

■ 結果・成果

働き方の多様性を実感することができ、石川県での職業選択の幅を知るきっかけとなった。また、共創インターンシッププログラム作りの糸口となった。



II 第2回I LOVE いしかわ学生創出会議 in 金沢

in 金沢大学五十周年創立記念館「角間の里」 2月26日

■ 出席者

25人

学生	19人
地域サポーター	4人
その他	2人

■ 実施概要

●13:00-15:15「地域サポーターの想いを聞く」

学生ファシリテーターの進行により、車座形式で4人の地域サポーターから話を聞いた。

●15:30-16:00「全体討論」

質疑・応答

地域サポーターから学生へのメッセージ

■ 結果・成果

地域サポーターのそれぞれの仕事へのきっかけや想い、仕事や人生との向き合い方(ワークライフバランス)について直接話を聞いた。サポーターの柔軟で主体的な姿勢に触れることにより、自身の将来について多様な選択肢があることを認識し、新しいことに挑戦する意欲が生まれた学生が多かった。



2.共創インターンシップ

[1]平成28年度

Ⅲ 第2回I LOVE いしかわ学生創出会議 in 能登

in 中能登町、志賀町 3月26日

■出席者

19人

学生	12人
地域サポーター	3人
その他	4人

■実施概要

地域サポーターが活動する実際の現場を訪れ、地域での取り組みに対する熱い想いや、能登の魅力を肌で感じてきました。

●10:10-10:50 地域サポーターが取り組む
「中能登トレイルランコース見学」

●12:00-14:30 「地域サポーターに想いを聞く」

・1人のサポーター・学生3人/グループ 20分×4回

・全体討論

●15:00-15:30 地位サポーターが活動する
「志賀町の畑を見学」

コーディネーター 認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山あつこ

■結果・成果

参加したサポーターが実際に活動している場所を見ることで、サポーターの想いや人生観を言葉として理解するのではなく、自分と照らし合わせ自分自身への落とし込みがスムーズに行われた。



3 共創インターンシップ

目的

いしかわで活躍する地域サポーター等の下で、人々の暮らしや生き方に触れ、地域の課題に自分事として向き合い、挑戦します。

1 KITインターンシップ・プロジェクト(共和電機工業株式会社)

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパスアントレプレナーズラボ・共和電機工業株式会社 7月29日～9月16日

■出席者

28人

■実施概要

共和電機工業株式会社(金沢市増泉)から提供された実践的な課題に対して、問題発見解決に取り組む産学連携教育プログラム「KITインターンシップ・プロジェクト」は、提供された次の2つのテーマに対して学生が個人でアイデアに取り組むほか、審査会当日は社員チームからも課題解決の提案を発表された。

7月29日・8月1日:勉強会

8月3日～8月5日:工場見学

8月8日:発表審査会



9月12～16日：インターンシップ

【テーマ】

- (1) 電子基板製造現場の超スピード化！
- (2) 工作機械製造工場のムダを削減！

■ 結果・成果

学生が地元連携企業のプロフィールや提供されるテーマに対しての理解を深め、まずは、本学教授から観察力、工場生産マネジメント分野を学習。その後、現場でのヒアリングなどを通して企業の理解を深め、エンジニアになりきって創出した問題発見解決プランを提案した。プランは企業の役員が審査員となるコンペ形式により評価。後のインターンシップ期間では実際に解決策の具現化に取り組むことをテーマとして実習を行った。



2 KITアイデアソン&ハッカソン2016

金沢工業大学

in 金沢工業大学白山麓キャンパス
8月6・7日、9月16・17日

■ 出席者

207人
(学生127人、社会人80人〈石川県内69人41社、他県11人8社〉)

■ 実施概要

白山エリアを対象とし、近未来の里山のあるべき姿をテーマに、学生と社会人によるアイデアソン&ハッカソンを開催。里山の現状への理解1日、近未来の里山のあるべき姿を創出するアイデアソン1日、モックアップの開発2日といった3日～4日間の短期開発プログラムを開催した。

■ 結果・成果

学生は地元地域の課題を地域住民や地元企業らと課題解決に向けたディスカッションを通して地域について理解を深め、世代を超えた交流を図った。また、モックアップづくりの場面では企業参加者から学生に対してアドバイスが与えられたり、学生からも質問したり意見を述べるなど活発な意見交換が行われた。学生と社会人は寝食を共にすることによりアットホームな交流ができ、親密な関係を構築することができた。



3 地元企業合同研修プログラム(MaTEプロジェクト)

金沢工業大学

in 金沢工業大学八束穂キャンパス62号館・扇が丘キャンパス21号館 8月19日～1月31日

■ 目的

MaTE(メイト)プロジェクトは、地元工作機械メーカーにおける国外の技術力向上という脅威を背景に、金沢工業大学機械系教員の教育研究実績を活用し、地元企業の若手技術者や今後地元企業を支える技術者となり得る地元大学生を対象に、地元企業の継続的な技術力向上を目指したプラットフォーム構築を目的とした。

2.共創インターンシップ

[1]平成28年度

出席者

200人
(学生10人～160人・社会人10人～40人)

実施概要

本学教員による地域技術者・大学生向けの講座を定期的に行っており、中村留精密工業株式会社、高松機械工業株式会社、津田駒工業株式会社、澁谷工業株式会社、コマツNTC株式会社、株式会社松浦機械製作、石川県工業試験場と連携し、全18回の講義を通して設計や加工技術などの機械工作に欠かせない技術について、専門基礎的な理解を深めた。また、国内の有識者・著名技術者を招いた特別講演会も多数開催し、industry4.0を目指しIoTに関する学習も行った。毎回、各企業より技術者が参加し学生と活発な意見交換を行った。

結果・成果

このように地元企業の技術者と学生達が合同で行い、互いに交流し研鑽し合うことで、学生達にとっても効果的な学びの機会となる。さらに参加者同士が意見交換を行うことで、学生達は地元企業のことを知り、魅力を直接感じることができる。これは学生の進路選択にもつながる貴重な交流の機会となった。

MaTE講義日程2016				
	開催日	内容	概要	場所
1	8月19日	① 発起式	発起式	いいのき迎賓館ビートルーム8
2	8月23日	② 森本	制御性を考慮した設計 ○軸、いてこそ機械を制御することを知る	金沢工業大学12号館1階
3	9月13日	③ 金沢大学 高杉先生	動的挙動、固有振動モードを考慮した設計 ○揺れたときどうするかを知る	金沢工業大学62号館203号室
4	9月20日	④ 【特別講演】日本IBM 藤野正人氏	○Industry4.0と人工知能について	金沢工業大学12号館1階
5	9月20日	⑤ 石川県工業試験場 廣崎憲一先生	試験場見学(精密測定室と3Dプリンタ室) ○工作機械・工作物の精度評価手法について⑥ ○工作機械・工作物の精度評価手法について⑦	石川県工業試験場
6	10月4日	⑥ 瀬川	組立てを意図した設計。 ○公差を入れればよくなるものでもない	金沢工業大学62号館203号室
7	10月11日			
8	10月18日			
9	10月25日			
	11月1日	休み		
	11月8日			
10	11月15日	⑦ 十河	⑦ 定常、非定常熱問題を考慮した設計 ○熱変形したときどうするかを知る	金沢工業大学62号館203号室
11	11月22日			
12	11月29日	⑧ 加藤(秀)	加工技術 ○生産性と品質を考慮した加工方法を学ぶ	金沢工業大学62号館203号室
13	12月2日	⑨ 杉本	特別講演会 ソフトウェア・ハードウェアによる特別講演。	金沢工業大学扇が丘キャンパス 12号館4階インベシオンホール
14	12月6日	⑩ 加藤(秀)	加工技術 ○生産性と品質を考慮した加工方法を学ぶ	金沢工業大学62号館203号室
15	12月20日	⑪ 杉本	○CFDを用いて油水流れに関する設計を学ぶ	金沢工業大学扇が丘キャンパス 24号館507号室
16	1月17日	⑫ 元ゼット目つば研究所 谷村吉久先生	○実用工学計測技術	金沢工業大学扇が丘キャンパス 23号館320号室
17	1月24日			
18	1月31日	⑬ 森本	制御性を考慮した設計②	金沢工業大学62号館203号室



4 組織開発リーダーシップ講座 金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパスアントレプレナーズラボ 9月14日

出席者

18人(学生3人、社会人12人、本学職員3人)

実施概要

地元企業と連携し、株式会社エッセンシャル・プリンシプルの原田大輔氏を講師に招いて、組織の可能性を最大化し、組織を動かすためのリーダーシップ・トレーニングを金沢工業大学にて開催した。

結果・成果

この講義は社会人としての仕事のノウハウを学ぶよりも、リーダー自身の内発的なリーダーシップの高め方に主眼におかれ、グループでのワークショップ形式を中心に、活発なディスカッションが繰り広げられた。学生にとっては、社会人との交流の機会になったのはもちろんのこと、リーダーシップについて対話し続けることで必要なリーダーシップが発見でき、自分自身の能力を最大限に発揮し、課外活動などのチーム・組織の活性化についての学びの機会となった。

～ゲームを動かすリーダーの作り方～

限定15名

人と組織の可能性を最大化し、組織を動かすための
圧倒的なリーダーシップ・トレーニング
組織開発リーダーシップ講座

9月14日(水) 15:00～17:30
(14:30開場)

この講座では、自分自身の能力を最大限に発揮し、組織を動かすためのリーダーシップを学ぶ。この講座を通じて、自分自身の能力を最大限に発揮し、組織を動かすためのリーダーシップを学ぶ。

講師 原田 大輔
(Essential Principle)

金沢工業大学15号館 2F 201会議室

5 野々市市創業塾

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパスアントレプレナーズラボ 11月19・26日、12月3・10日

■ 出席者

17人(学生9人、社会人8人)

■ 実施概要

野々市市商工会が主催となり、創業に関心のある方や野々市市内で創業を予定している方等を対象とした創業塾を開催。4回にわたり創業に係る基礎知識を学ぶ講座を開催した。参加者は4回の講座を通して、創業への理解を深め、地域で創業された方の事例などから、ぼんやりとしていた創業に対するイメージを具体化し、自ら考えるビジネスプランについてプレゼンテーションを行った。

第1回 創業のビジョンとビジネスモデルを明確にする

第2回 事業に必要な知識を学ぶ

第3回 情報の収集と発信で顧客を広げる

第4回 プレゼンテーションで思いを伝える

講師(全4回):かが経営コンサルティング代表 平野禎幸
(中小企業診断士)

■ 結果・成果

地域での創業を考えている意識の高いメンバーが集まったことにより、地域でのネットワークづくりや地域の特性を生かした事業について考えることができた。



6 株式会社北國銀行×金沢工業大学連携事業

リーダーシップ力育成プログラム

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパスアントレプレナーズラボ・株式会社北國銀行 本店 12月9日～3月10日

■ 出席者

41人(学生15人、社会人26人(19社))

■ 実施概要

第1回:12月9日

第2回:1月27日

第3回:3月10日

金沢工業大学と北國銀行の連携事業プログラム。金沢工業大学学生、地元企業が集まり、企業の若手リーダーと大学生がグループワークを通してリーダーシップ力を醸成するプログラム。ディスカッションテーマを「地元学生を地元に着定させるための事業計画を立案する」とし、3か月にわたり計画を立案した。2回の定期ミーティング(12月9日、1月27日)およびSNSを活用しながらチーム活動を行い、3月10日に北國銀行本店にて成果発表を行った。



2.共創インターンシップ

【1】平成28年度

■ 結果・成果

第1回(12月9日)の全体ミーティングでは、7班に分かれて地元学生が定着しない理由やどうすれば地元企業の魅力を発信できるかなどについて意見交換を行った。全体ミーティング以外の期間はSNSを活用したグループウェアを用いた継続的なグループディスカッションも行った。学生にとっては、北陸のビジネスの最前線で活躍するリーダーとの交流や、参加企業の取り組み、強み・特徴を知る機会となり、企業にとっても長期的に学生と交流できる場となった。

7 企業及び地方自治体におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ 石川県立看護大学

I 企業におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ

4月13日～9月30日

■ 目的

企業の現場で働く看護職の活動を経験的に学ぶ。

■ 出席者

117人

■ 実施概要

①企業におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ説明会

日 時:平成28年4月13日(水)15時～16時30分

人 数:16人(企業の産業看護職10人、大学教員6人)

②企業におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップにおける学生の活動

参加学生数:88人

活動期間:平成28年4月18日(月)～7月8日(金)

活動内容:各企業の健康管理部門を受け入れ窓口、安全・衛生の諸活動に参加し、企業における労働者の健康管理の実際を理解し、労働者の健康課題解決に向けた方策について考え、実態把握や課題解決への取り組みを行った。

③企業におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ成果報告会

日 時:平成28年9月30日(金)15時～16時30分

人 数:13人(企業の産業看護職7人、大学教員6人)

■ インターンシップの成果

石川県内の企業や労働者の健康管理のために働く看護職に対する理解が深まった。

II 地方自治体におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ

in 石川県立看護大学、能登空港、石川県庁 4月12日～11月28日

■ 目的

地方自治体の保健福祉の現場で働く保健師の活動を経験的に学んだ。

■ 実施概要

①地方自治体におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ説明会

【看護大学会場】

日 時:平成28年4月12日(水)13時30分～15時

人 数:12人(保健所及び市町村の保健師9人、大学教員3人)

【能登空港会場】

日 時:平成28年4月12日(水)13時30分～15時

人 数:9人(保健所及び市町村の保健師7人、大学教員2人)

②地方自治体におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップにおける学生の活動

参加学生数:90人

活動期間:平成28年4月18日(月)～7月8日(金)

活動内容:各地方自治体の保健福祉部門を受け入れ窓口にて、地域の諸状況や人々の健康状態の指標から健康課題を見つけ出し、各地方自治体の保健福祉活動等の実際を理解し、住民の健康増進に必要な方策について考え、さらなる実態把握や課題解決への取り組みを行った。

③地方自治体におけるヘルスプロモーション活動のインターンシップ成果報告会

【県庁会場】

日 時:平成28年11月28日(金)15時～16時30分

人 数:14人(保健所及び市町村の保健師10人、大学教員4人)

【能登空港会場】

日 時:平成28年11月28日(金)13時30分～15時

人 数:7人(保健所及び市町村の保健師5人、大学教員2人)

■ 結果・成果

石川県内の自治体の保健福祉活動や保健師に対する理解が深まった。

8 ハイディーワイナリーでのインターンシップ

石川県立大学

in ハイディーワイナリー 9月1～3日

■ 出席者

3人(石川県立大学)

■ 実施概要

門前町のハイディーワイナリーにおいて、生産科学科3人がブドウ畑の除草・施肥、ジャム瓶へのラベル貼り、ダイレクトメールの発送準備、ワインの仕込みなどの仕事を体験した。

■ 結果・成果

ワイナリーの仕事に興味を持つことができた。参加した学生のなかには、同ワイナリーが計画しているヒツジ牧場が平成30年4月に開設されるのであれば、就職したいという希望をもつようになった。



ブドウ畑



ブドウ畑での作業



ワイン仕込み



頑張るぞ！

9 就職活動に向けて農業法人及び六次産業化の実際を学ぶ

石川県立大学

in 農業法人六星 1月25日

■ 出席者

45人(石川県立大学)

2.共創インターンシップ

【1】平成28年度

■実施概要

農業法人六星の大上戸氏より、農業法人である六星の農業及び六次産業化の実際についてパワーポイントにより紹介いただき、農業法人とはどういうものか、六次産業化とはどういうものかを理解した。また、農業や六次産業化を行う強みについて解説し、従事する喜び、やりがい、大変さ等について、当人及び従業員の声を紹介した。最後に、大上戸氏の講演の後、質疑応答を行い、農業法人や六次産業化について理解を深めた。

■結果・成果

この座学を通し、学生が県内農業法人への理解を深め、就職活動やインターンシップ体験等につながるよう、次年度は、講義に演習も取り入れ継続した活動を行う予定である。

10 奥能登国際芸術祭での作品展開の候補地の調査及び提案書の作成 金沢星稜大学

in 珠洲市狼煙町横山地区 8月8～12日、11月13～19日・30日

■出席者

5人(金沢星稜大学1人、教員1人、関係者3人)

■実施概要

平成28年8月8日(月)～12日(金)インターンシップ

平成28年11月13日(日)～19日(土)インターンシップ

平成28年11月30日(水)提案書作成

平成29年、能登珠洲市の里山・里海で行われる奥能登国際芸術祭で内外のアーティストが長期滞在しながら地域住民と連携してアート作品を製作するアートプロジェクトを行うため、フィールドワークによる現地調査を行い、使用されていない住居、廃校となった小学校など、その場の空間を取り込んだアート作品を製作する候補地としてインターンシップに行っている学生とともに、狼煙町横山地区を中心に調査を行った。

11 のと共栄信用金庫の環境金融、創業支援等戦略的業務の体験・理解 金沢星稜大学

in のと共栄信用金庫 本店 8月29日～9月2日

■目的

地域金融機関の中でも、創業支援や環境金融に先進的に取り組む「のと共栄信用金庫」の戦略的業務を体験することにより、地方創生を金融の面から支える地域金融機関の重要性の理解促進を図り、学生の地元定着、キャリアデザイン意識の向上を図る。

■出席者

7人(金沢星稜大学6人、担当教員1人)

■実施概要

特徴的なプログラムとして、3日目に、七尾商工会議所、のと共栄信用金庫、日本政策金融公庫、七尾市の4者で創設した、「ななお創業応援カルテット」の融資企業である、ハイディーワイナリー及び併設のレストラン「ふらんじゅ」を視察し、4日目に「ふらんじゅ」のSWOT分析を基にした集客提案のワークショップを実施した。

■結果・成果

ワークショップのアウトプットであるSWOT分析と集客提案書は、のと共栄信用金庫からの評価は高く、株式会社ハイディーワイナリーの株主総会場で、のと共栄信用金庫から参考資料として関係者に提供することとなった。また、参加学生に対しては、就職の際にはぜひ、のと共栄信用金庫を受けてほしいとの言葉もいただいた。

学生の方も、信用金庫が地方創生に大きな役割を果たしていることを体験・理解し、信用金庫のイメージが大きく変わり、大変

に有意義であったとの感想が大方であった。のと共栄信用金庫への就職を真剣に考えたいとする学生も複数いた。

また、担当教員が大林重治理事長を表敬した際には、来年度もこのような機会があればぜひ継続実施したいとの言葉をいただいた。

12 加賀地域における観光資源の発掘と着地型旅行商品の提案

金沢星稜大学

in 山中温泉 8～9月

出席者

24人(金沢星稜大学18人、関係者6人)

実施概要

「加賀地域における観光資源の発掘と着地型旅行商品の提案」をテーマに、山中温泉の旅館におけるインターンシップを実施しながら、観光資源の発掘および整理を行った。目下、マーケット動向について各種資料をもとに把握しながら、観光商品の提案・造成に向けた作業を実施した。

13 観光交流に向けた商品開発と地域資源の再評価と活用するための人材育成

金沢星稜大学

in 志賀町農家民宿古民家こずえ 9月17～21日

出席者

4人(金沢星稜大学3人、担当教員1人)

実施概要

インターンシップの受け入れ先として、志賀町の農家民宿古民家こずえに依頼した。プログラムの主な目的は、定住環境の整備に向けた初期段階として、街の生活基盤及び、雇用、教育などについて把握した。

第一に、移住者へのインタビューを通して、Iターン者・Uターン者などの類型(嫁ターン、孫ターンなど)を明らかにした。また、移住決定までのプロセス、現状(経済的指標・社会的指標から)、地域の方々との関係性の構築(祭りや地域活動への参加状況と頻度)、将来展望、について明らかにした。第二に、農家民宿古民家こずえを核にした地域づ

私たちの活動目的と内容

活動目的

・最終的な目標を定住としたときに、様々な課題解決が必要だと感じた。そのため一つずつ段階を踏んで小さな課題をクリアしていく必要もあると思ったため、その第一歩を踏むための課題とした。

活動内容

・その地域性や背景を把握するために行政・住民・企業など様々な視点を取り入れ、ヒアリングを行った。

・ヒアリング結果から自分たちに実現可能な課題解決法を見出した。



発見したこと

- 学生だったら祭りは入る側も迎える側も入りやすい。(第4期インターン生のような人間関係の構築をし、ヨソ者が祭りに参加するとなったときの関係を取り持つ必要性がある。)
- 普段の日常のよさ等をテーマにした体験プログラムを組む必要性

発見したこと

- また来たいと思うのは人との繋がり。(祭りやお店での交流したときの記憶が残りやすい)
- 連携が取れないという仕組みの構図。
- 地域住民の意識が低い。(自分の代で集落が終わるという感覚)
- 地域住民に魅力を知ってもらう活動が必要
- その活動をする上で連携を取る体制の構図が必要

2.共創インターンシップ

[1]平成28年度

くり(地域資源の発掘と移住者子育て世代における里山プログラム)を構築した。第三に、観光交流に向けた商品開発(志賀町におけるインバウンド観光の整備と都市部からの交流人口の拡大)を模索した。第四に、地域資源を活かす担い手の育成(大学生の里山留学)を実践した。

■結果・成果

老若男女の移住希望者が増えている現在において、地域の企業や住民の方々との交流を通して弱い紐帯を築く可能性がある。移住・定住に向けた段階的に考えていくプログラムとして、その入り口として位置づけることができ、将来的に地域で活躍する人材の確保につながっていくことが期待できた。

発見から見えたテーマ

・祭りや体験プログラムを通して人と人が交流できる場を作る

テーマからできること

・体験を通してヨソ者には住民との消えない思い出を作ってもらう

・住民には地域の魅力を再発見してもらい誇りを持ってもらう(主体性を持って動いてもらう)

14 Ishikawa 明日リート応援プロジェクト

北陸大学

in 北陸大学太陽が丘キャンパス 2月14日

■出席者

216人

(学生191人、北陸大学OB5人、金沢青年会議所(JCI)20人)

■実施概要

【第Ⅰ部】9:00-12:00

①学生向け特別講演

「ワンデー就活トレーニング 社会のリーダーになるためには」

講師:岡田直己

(インターフェイス・キャリアアカデミー チーフアドバイザー)

②JCI向け特別講演 スポーツ学生の採用について

講師:北博典

(株式会社ガーディアンシップ 代表取締役)

第Ⅰ部は学生、JCI向けにそれぞれ講演会を実施した。学生にはこれから就職活動を行うにあたり、就職活動の流れや心構えについての講演。JCIメンバーには、スポーツ系の学生を採用することの利点等について講演が行われた。

【第Ⅱ部】13:00-16:00

「OBと語ろう。～君が学生時代にすべき事～」

北陸大学卒のスポーツ系OBと、JCIメンバーを招き、ブース形式で座談会を実施した。15分間隔で、OB・JCIメンバーが学生のテーブルを回り、社会人の厳しさ、苦労話、失敗談、成功談、やりがいなどについて質疑応答を交えながら、学生と語らった。

■結果・成果

石川県内に在籍するスポーツ系大学生の石川県内での就職率向上を目的とし実施した。参加した学生からは「いろいろな職種の話を知ることができ視野が広がった」「体育会系のメリットを生かし、チャレンジ精神を持ち明るく働くことを目指す」などの前向きな声が多かった。OB・JCI側からは「就職活動前の学生さんが考えていることがよくわかったので、今後の採用活動に役立てる」「自分のことを振り返るいい機会になった」という感想が聞かれた。学生にとっては、就職活動はもちろん自分の将来への不安を払拭



学生向け特別講演会の様子



JCI向け特別講演会の様子



第Ⅱ部の様子

石川県は、
スポーツ系学生にとって、
常に挑戦したくなる
『フィールド』でありたい。

卒業したら、地元へ帰る？ それとも東京へ行く？
確かに地元は故郷ゆえに、思い入れが強い。でも就職に繋がっていない。この「フィールド」やイベントについて少し耳を傾けてみてほしい。多くのスポーツがそうであるように、人生においても思い入れ、かけがえのない「フィールド」を持つ。ここ石川県も、スポーツで培った「体力」と「精神力」を持つ優秀な人材によって、挑戦したくなる魅力的なフィールドでありたい。多くの企業や団体も、卒業生を「フィールドの一員」として、明日はナトリート＝あなた」の人間力を必要としている。

スポーツ系学生の県内就職率を高め、石川県の未来をこまめに。

ISHIKAWA 明日リート
応援プロジェクト

スポーツ系大学生 × 北陸大学 OB

2月14日(火) 会場 200名 (第Ⅰ部・第Ⅱ部とも)

第Ⅰ部 (9:00-12:00) 講師: 岡田直己氏
「ワンデー就活トレーニング 社会のリーダーになるためには」
会場: 北陸大学 太陽が丘キャンパス (201) 第Ⅰ部会場

第Ⅱ部 (13:00-16:00) 講師: 北博典氏
「OBと語ろう。～君が学生時代にすべき事～」
会場: 北陸大学 太陽が丘キャンパス (202) 第Ⅱ部会場

協賛: 石川県の未来をこまめに。 北陸大学

すると共に、夢に向かってモチベーションを高めることとなり、企業側にとっても、スポーツ系学生のエネルギーに触れ、企業に活力を生み出してくれる学生の採用について積極的に考える、双方にとって意義のある機会となった。

15 株式会社芝寿しの新商品開発調査

金沢学院大学

in 金沢学院大学 4月23日～11月22日

■ 出席者

5人

■ 実施概要

1. 株式会社芝寿しからの問題提起（需要層の高齢化による需要減の可能性、若者向けの弁当の開発が必要）を受け、当ゼミ生より、スポーツ大会用の弁当の開発を提案。スポーツをしている若者が望む弁当の量、中身、金額などを把握するためのアンケート調査を行うこととなった。
2. アンケート調査は、本学のウェイトリフティング部、バスケットボール部、バドミントン部の協力で所属学生を対象に、平成28年6月中旬～下旬にかけて行った。
3. アンケート調査結果を、平成28年7月1日に中間報告し、株式会社芝寿し経営企画室齋藤浩章室長、営業部大島功次次長等から分析不足の部分のご指摘をいただいた。定期試験終了後に、追加分析を行い、8月10日に報告書を提出した。
4. 株式会社芝寿しにて、報告書を基に「アスリート弁当」の開発を行い、平成28年11月22日に本学内で試食会を行った。「アスリート弁当」はスポーツ大会用弁当とのことで、常時市販されるわけではなく、大会時に注文を受け付ける形になった。



平成28年11月23日
北國新聞

2.共創インターンシップ

[1]平成28年度

16 夏休み集中ガイダンス

金沢学院大学

in 金沢学院大学 南町サテライトキャンパス 9月13～16日

■ 目的

- ・学生生活における目的意識、コミュニケーション力等の社会人基礎力の醸成
- ・(研修教材を使用した)企業訪問の心構え・事前研修及び、事前指導
- ・地元企業2社の1dayインターンシップでの就業感醸成

■ 出席者

106人

■ 実施概要

【使用教材】

- ・産業能率大学研修ゲーム「イメージ交換ゲーム」
アイスブレイクにて使用
- ・産業能率大学研修ゲーム「コミュニケーションゲーム」
ビジネスゲーム①にて使用
- ・産業能率大学研修ゲーム「コラボレーションゲーム」
ビジネスゲーム②にて使用

●9月13日(火)

スタートアップ、アイスブレイク

ビジョンシート作成

共有・発表

ビジョン達成に向けて必要なこと

●9月14日(水)

PDCAサイクル

チームビルディング

●9月15日(木)

ビジネスゲーム①

ビジネスゲーム②

●9月16日(金)

株式会社北國銀行本店にて金融業界ガイダンス・行内見学

津田駒工業株式会社野々市工場にて、企業説明・工場見学

金沢学院大学にて4日間の振り返り・まとめ



4 その他連携詳細

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
いしかわインターンシップ・交流会	いしかわインターンシップフェス	石川県、いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)	5月14日	1,048
	冬のインターンシップ業界研究フェス		12月26日	500
	いしかわ就職フェア		3月11日	1,540
奥能登チャレンジインターンシップ	【珠洲市】 移住者(風の人)と地域住民(土の人)をつなぎたい!! ～空き家を活用した移住・交流の場づくり～	能登キャンパス構想 推進協議会	7月～12月	3
	【輪島市】 能登の葉っぱビジネスを金沢へ! 実践型マーケティングプロジェクト		8月～12月	4
	【穴水町】 移住者にとって魅力あるまちづくり		8月～9月	3
	【能登町】 RESAS 活用による地域資源を活かした戦略施策の立案と展開		7月～12月	3
能登・祭りの環 インターンシップ			8月～9月	131
株式会社北國新聞社との連携	ディスカバー北陸「北陸ではたらく、北陸でくらす」	株式会社北國新聞社	2月25日	10

2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
1 出会っていいんじゃないプロジェクト	第3回 出会っていいんじゃないプロジェクト(インターンシップ報告会)	金沢大学	12月17日	27
2 I LOVE いしかわ学生創出会議	第3回 I LOVE いしかわ学生創出会議	金沢大学	6月25日	33
3 いしかわ共創インターンシップ	1 「小松商工会議所 スーパーチームに密着！～地域経済団体の仕事とは～」(小松市)	金沢大学	8月28日～9月1日、9月11～15日	3
	2 「青年海外協力隊経験者と一緒に“ごちゃまぜ”のまちづくりを体験しよう！」(輪島市)		9月4～10日	3
	3 「鍛冶職人の世界を知る！in 能登町」(能登町)		9月13～16日	2
	4 「新しい鉋打村 復活！～日本の原風景を復活～」(七尾市中島町鉋打地区)		9月16～23日	4
	5 「輪島市河井地区住民調査(住生活学演習)」		11月11・12日	36
	6 「起業を目指す学生のための稲作農家インターンシップ」	石川県立大学	9月5～8日	2
	7 「就職活動に向けて農業法人及び六次産業化の実際を学ぶ」		1月24日	45
	8 「のと共栄信用金庫の環境金融、創業支援等戦略的業務の体験・理解」	金沢星稜大学	9月4～8日	6
4 KITセミナー	いしかわで学ぶ地域思考プログラム in 白山麓	金沢工業大学	9月7～10日	5
5 アポテカプロジェクト	かかりつけ薬局とつくる私の健康	金沢大学	12月2日	8
6 留学生関連イベント	You are going to LOVE ISHIKAWA	金沢大学	12月9日	15
7 みんなで創るスーパーレクチャ(コミュニケーションビジネス)	第1回「それでも、働く」	金沢大学	11月13日	149
	第2回「十人十色 広がる「わたし」の可能性」		12月11日	93
	第3回「人が動いちゃう秘密」		1月29日	98
8 キャリア支援プログラム(認定NPO法人キーパーソン21との連携)	わくわくナビゲーター養成研修(教職員向け)	金沢大学	3月26・27日	14
9 その他連携				4,859
合 計				5,402

1 出会っていいんじゃないプロジェクト

目的

夢に向かって生きる先輩との交流により、その志や信念、生き方を間近で感じることで、自分と向き合い、自身の中にある興味や“わくわく”(キャリア形成の基盤となる原動力)を探ります。

第3回 出会っていいんじゃないプロジェクト(インターンシップ報告会)

金沢大学

in 金沢学生のまち市民交流館 12月17日

目的

- ①参加学生が、共創インターンシップに参加した学生の体験談や学生を受け入れた地域サポーターの話を聞くことにより、共創インターンシップについて知り、興味・関心を持つきっかけとする。
- ②身近な先輩の学生時代の地域での活動が現在にどう結びついているか等の話を聞くことにより、参加学生は、地域での活動(インターンシップ)によって得られる経験や価値等について認識し、自分も何かやりたい、できるのではないかという意識の変化や行動につながることを目指す。
- ③今の学生が持っている興味や、大学生活に感じている物足りなさ等を引出し、学生と受入れ側双方が満足するインターンシップの在り方を探る。

出席者

27人

【地域サポーター】

輪島市:輪島KABULET 竹中成行
七尾市:鉦打ふるさとづくり協議会 村田正明
小松市:小松商工会議所 吉田賢司

【ファシリテーター】

株式会社ガクトラポ 代表 仁志出憲聖

【ゲスト】

株式会社こみんぐる 林俊伍
株式会社米心石川 岩城由貴子
オークス株式会社 木村み久



＜ファシリテーター＞
株式会社ガクトラポ代表
仁志出憲聖

実施概要

- ・第1部 13:00~14:30 地域での体験を語る
～共創インターンシップ&活動報告会～

今年度実施した4カ所のインターンシップの参加学生、受け入れ先地域サポーター及びいしかわ共創インターンシップの参加学生から、本インターンシップに関する活動報告があり、地域住民への聞き取り調査や稲刈り、祭り体験などの活動について、各自が体験談や感想を交えながら発表した。地域サポーターからも、受け入れ側としての意見を頂いた。

全体の報告の後、参加学生らは振り返りシートを記入し、隣同士で感じたことなどを共有した。



2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

・第2部 14:45～16:00 身近な先輩によるトークセッション

学生時代の地域での活動がきっかけとなり県内で起業・就職した身近な先輩方によるトークセッションを行った。学生時代に地域活動を通じて学んだことや、それぞれのキャリア、学生時代の今だからこそ経験して欲しいこと等について意見交換。先輩から学生に対し、「一歩行動するとやりたいことが見えてくる。まずは行動してみることが大切」といったメッセージが送られた。

■ 結果・成果

第1部では、参加した学生たちは、インターンシップの報告を聞いて、人とのつながりやコミュニケーションの大切さ、地域の良さを理解した。また、第2部で先輩方の経験を聞いて、一人でもしなければならぬ訳ではなく、様々な人と交流し協力してやるのが大切だと感じた。そしてインターンシップへの参加をはじめとし、まずは自分から積極的に行動することの重要性を感じた学生が多かった。

<参考：アンケート（抜粋）>

問：共創インターンシップに興味を持ったか



問：自分自身の中で、考え方や意識が変わったことはあったか

- ・インターンシップに積極的に参加したいと思った。
- ・様々な人と交流して様々な考え方を知りたいと思った。
- ・今夢を定める必要性は必ずしもないと思った。
- ・石川県はいいところ。可能性に満ち溢れているなあ〜と。

2 I LOVE いしかわ学生創出会議

【目的】

“いしかわ”をフィールドに「夢」と「志」を持って活躍する社会人（＝地域サポーター）から地域に根差した多様なライフスタイルについて話を伺い、自分の将来の可能性を広げます。

第3回 I LOVE いしかわ学生創出会議

金沢大学

in 金沢学生のまち市民交流館 6月25日

■ 目的

地域で活躍する大人（地域サポーター）の方のお話から、多様な生き方や価値観を学ぶ。このイベントをきっかけに、地域での新しい共創インターンシップにつなげる。

■ 出席者

33人

【地域サポーター】

能登町：ふくべ鍛冶	干場健太郎
白山市：岩間山荘女将	北村祐子
小松市：小松商工会議所	吉田賢司
こまつ町屋文庫	金田奈津代
加賀市：タビト學舎	飯貝誠

【ファシリテーター】

認定NPO法人キーパーソン21
朝山あつこ



<ファシリテーター>
認定NPO法人キーパーソン21
朝山あつこ



■実施概要

・第1部 13:00～15:05 大人と語ろう

地域サポーターから、“自分のわくわく”について紹介。
地域サポーター1人と学生5～6人、職員1人のグループに分かれ、30分間、地域サポーターの生き方や取り組み、取り組みに対する思いを聞いた。休憩を挟み、学生1人が3人の地域サポーターから話を聞けるよう、3セッション実施した。

・第2部 15:15～16:00 全体意見交換会

朝山氏のファシリテーションのもと、フィッシュボール形式で、参加学生と地域サポーター全員で、地域で意見交換を実施した。地域サポーターの“わくわく”や、学生から地域サポーターへの質問等、様々なテーマでの意見交換が行われた。

・感想共有

最初のグループに戻り、今日のイベントで一番心に残ったことを、それぞれが紙に書き、グループ内で発表し共有する時間を設けた。



地域サポーターの話を熱心に聞く学生達

■結果・成果

「こうならなければいけない」といった自分で自分にかけていた呪縛を取り払い、もっと自由にライフスタイルを選んでもいいということに気づいた学生が多かったようだ。また、学生として残された時間をいろいろなことにチャレンジすることに使いたいという意見も見受けられ「多様な生き方」ということを言葉だけではなく、実感することができる場となった。また、これをきっかけに、平成29年度小松商工会議所で共創インターンシップを実施することとなった。

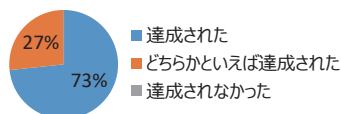


<参考：アンケート（抜粋）>

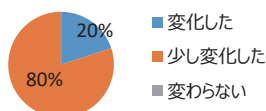
問：参加した目的

- ・自分の就職に関して何か得られればと思い参加
- ・社会に出る前にいろんな方とお会いして話をしたい
- ・仕事について知らないことが多く少しでも知識をつけたい

問：参加した目的は達成されたか



問：参加する前と比較して、気持ちに変化はありましたか



- ・もっと自由にライフスタイルを選んでもよいことを学べました。
- ・ただ公務員として働くのはつまらないのではないかと感じたから
- ・もっとアクションをおこしてみようかと思うようになりました。

その他：学生の声

- ・今回参加したおかげで大人として社会に出ることに期待感を持つことができた。今後もこのような機会を設けていただきたい。
- ・地域サポーター達は、大人になっても様々なことにチャレンジしているとしり、まだ時間に余裕のある学生のうちに自分でも何か行動を起こしたいと思った。



2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

3 いしかわ共創インターンシップ

目的

いしかわで活躍する地域サポーター等の下で、人々の暮らしや生き方に触れ、地域の課題に自分事として向き合い、挑戦します。

1 「小松商工会議所 スーパーチームに密着！～地域経済団体の仕事とは～」(小松市) 金沢大学

in 小松 8月28日～9月1日、9月11～15日

目的

小松市は北陸を代表するものづくりのまちで、航空自衛隊小松基地と小松空港とが共存した日本海側最大の飛行場を有している。グローバル企業であるKOMATSUをはじめとする機械産業や、繊維産業、九谷焼の伝統産業等、「ものづくり」をなりわいとする地域である。小松商工会議所は、地域振興、地域の課題解決に向けて地域と行政のパイプ役を果たしている。普段触れることの少ない商工会議所の業務や地域との関わりを、職員16人という少数精鋭で地域の課題解決に向けて努力する職員に密着することで理解する。

出席者

3人(金沢大学2人、金沢星稜大学1人)

【受け入れ団体／地域サポーター】

小松商工会議所 事業課 吉田賢司

実施概要

- | | |
|---------|--|
| 1日目 | 商工会議所の仕組み、仕事内容について説明 |
| 2日目～4日目 | 職員の一日に密着
様々な業種の事業従事者の方々との打合せの立会い
各種協議会の イベント打合せ等の立会い、
企画等 |
| 5日目 | 報告会 |

結果・成果

1日目は小松商工会議所の業務内容の説明を聞き、委員会や銀行、ハローワーク等に同行した。2日目以降は会計ソフトの研修会、各種協議会役員会等、多種多様な会議に参加させていただき商工会議所の業務の幅の広さに驚いたようだ。また、外国人から見た“素敵な南加賀”を紹介するため能美市の秋常古墳群や蟹淵といった観光スポットの視察にも同行した。この5日間を通して人との信頼関係、つながりが仕事をする上で重要であることを実感し、相手が求めるものは何であるかといったことを深く考える期間となったようだ。最終日には5日間の活動を学生が報告する会に所長をはじめ経営支援課、事業課といった部署を超えた方々が参加され、率直な意見やアドバイス、そして今後の進路選択に向けて学生にエールをもらった。



2 青年海外協力隊経験者と一緒に“ごちゃまぜ”のまちづくりを体験しよう！（輪島市） 金沢大学

in 輪島市 9月4~10日

■ 目的

輪島市では、行政とJOCA(公益社団法人青年海外協力協会)と社会福祉法人佛子園が連携し、「漆の里・生涯活躍のまちづくりプロジェクト」(=輪島KABULETプロジェクト)を実施している。そこで佛子園が描く“ごちゃまぜ”のまちづくりを目指してまさにプロジェクトが動き出したところである。このインターンシップでは、海外の開発援助事業で活用されているまちづくり手法(PCM手法)の研修を受講し、まちづくりの実践を学んだ上で、プロジェクトメンバーや地域住民へのヒアリング調査を実施し、課題解決に向けた企画案検討することで、街づくり事業がどのように行われているのかを体験する。

また、このプロジェクトは、海外青年協力隊のOB・OGが中心となって実施していることから、多様な経験をもつ人たちの考え方や人生観を知る。

■ 出席者

3人(金沢大学2人、北陸大学1人)

【受け入れ団体／地域サポーター】

輪島KABULET 竹中成行

■ 実施概要

- 1日目 移動・オリエンテーション
- 2,3日目 生涯活躍のまち専門人材育成研修
- 4日目 生涯活躍のまち専門人材育成研修／
関係者ヒアリング／課題解決プロジェクト検討
- 5日目 課題解決プロジェクト検討
- 6日目 報告会

■ 結果・成果

1日目は、輪島の町並みの様子や、建設中の施設等を見学し、輪島KABULETが手掛けるまちづくり事業を理解した。

2日目から4日目は、生涯活躍のまちの基本計画を策定するためのPCM手法の研修を受講し、関係者分析／問題分析／目的分析方法について学んだ。その後、実際に輪島の地域住民の方々や行政職員の方に輪島の様子や課題等について聞き取り調査を実施した。

5日目は、今まで学んだPCM手法を活用し、輪島市が抱える課題を分析し、活動案を検討した(千枚田ワッフルやキリコソフトといった案もでた)。

最終日には、輪島KABULETの職員及び聞き取り調査にご協力いただいた方に対して検討結果を報告し、実現可能性について意見交換を行い、インターンシップを終了。

インターンシップでは、まちづくりだけでなく、輪島KABULET職員で、元海外青年協力隊の方々の経験談もたくさん聞くことができ、多様な生き方にも触れることができた。



発表を聞く輪島KABULET職員

2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

3 鍛冶職人の世界を知る！ in 能登町(能登町)

金沢大学

in 能登町 9月13～16日

■ 目的

公務員を退職し、能登地方に1件しか残っていない鍛冶屋を継承した鍛冶職人が、地域の産業を守るため、地元に着した販売・修理を行っている。その一方で、能登以外からの外貨を獲得し、地域に新しい産業を生み出すため、ニッチな分野で全国・世界に向けた商品企画・開発を積極的に行っている。

このインターンシップでは、鍛冶職人に弟子入りし、地域の実情を目で見て実感するとともに、全国・世界に向けた商品企画・開発の現場を体験する。また、最終日には、能登の祭りにも参加し、世界農業遺産ともなっている能登の祭り文化を体験する。

■ 出席者

2人(金沢大学)

【受け入れ団体／地域サポーター】

ふくべ鍛冶 干場健太郎

■ 実施概要

1日目 移動・オリエンテーション

2・3日目 移動販売・鍛冶職人の仕事体験

4日目 まとめ・振り返り 柳田大祭参加

■ 結果・成果

このインターンシップでは、3日間にわたり、鍛冶職人の現場を体験し技術の修得(ペーパーナイフ作りや包丁研ぎの体験)や移動販売の同行を体験した。移動販売の同行では、能登町の人々との交流を通して、能登町での暮らしやコミュニティ、課題等を実感することができた。また、干場氏からは商品開発のノウハウや地方から全国・世界に向けた販路開拓等について学んだ。

学生にはこの3日間を通してペーパーナイフ体験事業の企画案を作成するという課題が与えられ、最終日にはそれぞれが企画した事業案を発表した。「ペーパーナイフ体験を取り入れた能登町の男社会を体験する旅行プラン案」や「ふくべ鍛冶デザインコンペ案」の発表の後、提案内容や今回のインターンシップで学んだこと等について意見交換を行った。

インターンシップの最後には、能登の祭りの一つである柳田大祭に参加。ヨバレでは、杜氏の方や移住した方など地域の方々と交流を深めた後、大ギリコ担ぎに汗を流し、能登の祭り文化を体験した。参加した学生達は、ふくべ鍛冶干場氏の仕事に対する姿勢や考え方に大きな影響を受けたようだ。



移動販売に同行する様子



企画案を発表する学生

4 新しい鉾打村復活！～日本の原風景を復活～(七尾市中島町鉾打地区)

金沢大学

in 七尾市鉾打 9月16～23日

■ 目的

鉾打ふるさとづくり協議会では、鉾打地区復活のため「能登の里山」資源を活かした生業事業など様々な取り組みを行い、農業体験、祭体験ツーリズム等を実施し、大学生の受け入れも積極的に行っている。

このインターンシップでは、鉾打ふるさとづくり協議会で尽力する村田氏のもとで、鉾打復活の基となる中高生を対象とした住民意識調査の実施や地区の人との農作業等を通じて交流を深め、鉾打復活に向けてどのようなことができるかを考える。また、最終日には、鉾打地区の「杵旗祭り」にも参加する。



■ 出席者

4人(金沢大学2人、金沢工業大学2人)

【受け入れ団体／地域サポーター】

鉾打ふるさとづくり協議会 村田正明

■ 実施概要

- 1日目 移動・オリエンテーション
- 2～4日目 住民意識調査
- 5日目 住民意識調査／報告会準備
- 6日目 報告会準備／報告会
- 7日目 農業体験／杵旗祭り準備
- 8日目 杵旗祭り

■ 結果・成果

1日目は鉾打地区の集落、田んぼ等の全体を把握するために2時間程度かけて散策を行いこれから実施する「中・高校生の地域に対する意識調査アンケート回収」の予定を立てた。

2日目、3日目はアンケートを1軒ずつ回収に回り、回収先で飲み物を出していただいたり、道に迷って戸惑っているときには訪問先まで住民の方が案内してくださったりと、地域の温かさを実感する瞬間だったようだ。また、ライスセンターでお米を運んだり、お米を入れる袋の選別等を行い、お米が収穫されてから食卓に出るまでの過程の多さに驚いたようだ。

4日目はアンケート結果を集計し報告会を開催した。参加された10人余りの住民の方からは報告内容を聞き「高校生はもっと地域行事に参加したいのかぁ」という感想をもらし、新しい発見があったようだ。アンケート結果は後日、住民の方に報告書として配布する予定。

5日目以降はライスセンターで汗を流す傍ら、隣の集落の祭りを見学し、集落同士でお互いに人手を出し合い〔結〕一致団結する地域の方の様子を見て祭りを大切にする熱い想いを感じたようだ。

8日目の最終日には鉾打「杵旗祭」で神輿、杵旗を地域の方と一緒に担ぎ顔見知りになった住民の方から行く先々で声をかけられ、余所者は普段では体験できない玉串拝礼までさせていただき、胸に熱くこみ上げるものがあったようだ。

この期間を通して、学生たちは自分の作るお米に自信を持ち、自分の仕事に誇りを持っている人、地域の持続のために昼夜を問わず仕事をしている人、そして地域住民同士の距離感の近いことに魅力を感じている中・高校生。学生はこのような人たちと接することで、今まで自分たちがこだわっていた外的キャリア要素ではなく、内的キャリアのカッコ良さに気づいたようだ。



意識調査を取りまとめる学生



意識調査結果を発表する学生



稲刈り作業を体験



杵旗祭を体験

2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

5 輪島市河井地区住民調査(住生活学演習)(輪島市)

金沢大学

in 輪島市 11月11・12日

■ 目的

社会福祉法人佛子園では、輪島KABULETの拠点整備を現在進めており、平成30年4月、サービス付き高齢者向け住宅棟の拠点施設フルオープン予定(当時)。拠点施設導入前後での、地域住民の健康状態や地域交流人口といったQOLの変化を調査するため、拠点オープン前の調査をする。

今夏実施した共創インターンシップの延長として、本学地域創造学類 山岸雅子教授の授業の一環として「多世代共生コミュニティ構築と維持に向けた地域連携・協働の実態と課題」、調査を実施する。

■ 出席者

36人(金沢大学)

【受け入れ団体／地域サポーター】

輪島KABULET 竹中成行

■ 実施概要

1日目 事前研修／輪島市内及び輪島KABULET見学

ヒアリング調査

輪島KABULET職員及びまちづくり関係者との交流会

2日目 ヒアリング調査／資料とりまとめ

【調査対象住民】

輪島市河井地区(7区と11区) 合計182世帯

■ 結果・成果

社会福祉法人佛子園と連携し、現在輪島市で佛子園が進める地方創生施策「輪島カブーレプロジェクト」の開設前の地区の状況や住民の意識を把握するため、2日間にわたり住民へのヒアリング調査を行った。学生が高齢者を中心に直接生の声を聴き、生活の現状、今後の活性化や交流促進を考えることにより地域理解を深めた。調査以外には事業地を見学し、朝市、足湯、輪島塗会館などを自由に見学、夜は輪島市所有の古民家に合宿した。夕食時は輪島カブーレや、宿泊した古民家の管理、農村の仕事づくりの活動をする百笑の会などまちづくり関係者との交流会を行い、まちづくりの実地について話を聞いた。また、朝食では地元の素朴な料理を味わうことができた。全体的に天候が悪く、忙しい日程であったが、学生は現地に行かなければできない様々な体験をすることができ大変有意義であった。



朝市見学



ヒアリング調査



資料整理



交流会

6 起業を目指す学生のための稲作農家インターンシップ

石川県立大学

in 橋竜伊商店の圃場・作業場(志賀町稲敷) 9月5～8日

■ 目的

学生の石川県内定着を図るには、企業への就職だけでなく、起業の促進も重要である。橋竜伊(ハシタツヨシ)商店は野々市市にあり、個人経営であるが能登において米を生産するとともに、自家米を原料とした日本酒製造を行い、生産した米と酒を県内外で販売している。店主の橋竜伊氏は農家出身者ではないが、大学卒業後、石川県内の農業法人に就職し、その経験を踏まえて起業した経験を有しており、ジョブカフェ石川の農業分野のシェルパー講師を10年以上務めている。学生にも農業分野での起業を期待している。最近では、経営の安定を図るために、稲作での副産物を飼料として活用した低コストヒツジ生産の導入

にも意欲をみせており、「先のみえる」経営者である。

そこで、本インターンシップにおいては、学生が稲作体験を行いながら橋氏との触れ合いのなかから起業を行うために必要な事柄を学ぶことを目的とする。

■ 出席者

2人(石川県立大学)

【受け入れ団体／地域サポーター】

橋竜伊商店 代表 橋竜伊

■ 実施概要

稲作体験(稲刈り及び籾摺り)及び起業体験についてのレクチャー

9月5日(火)

橋竜伊商店店主の橋氏の指導を受けながらコンバイン収穫の体験をした。また、圃場の草刈りも行った。

9月6日(水)

雨天のために作業場において籾摺り体験を行った。また機械籾摺りも見学した。

9月7日(木)

この日も雨天であったため、前日と同様に籾摺り体験を行った。また、ヒツジの世話をを行った。終了後、反省会及び成果取りまとめ等を行った。

■ 結果・成果

石川県での農業起業を目指す学生の育成を目的に、橋氏から稲刈りと収穫後の作業の指導を受けるとともに、起業体験談を聞いた。2人のうち1人の学生は農業起業に興味を持つようになった。



稲刈りの指導をうける様子



ヒツジの世話をしている様子

7 就職活動に向けて農業法人及び六次産業化の実際を学ぶ

石川県立大学

in 農業法人六星 1月24日

■ 目的

昨年度に実施した座学を中心とした六次産業化の学びを踏まえ、今年度は農業法人六星とともに、六次産業化や農業が抱える問題点を理解するとともに、演習や実践的な活動を通じた学びへとつながるインターンシッププログラムの作成と実施を目標とする。

また、将来的なUターンまたはIターン就職のため、次年度以降、他大学に通う学生をはじめ、これまで農業関係への就職を考えていなかった学生にも広く門戸が開かれたインターンシッププログラムを作成する。

■ 出席者

45人(石川県立大学)

【講師】

株式会社六星 取締役 浅野康隆



2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

■実施概要

- ・講義 「農業の企業化と六次産業化の戦略について」
- ・グループワーク テーマ 「農業を企業化するメリット、六次産業化をどのように発展させるか」

■結果・成果

株式会社六星の浅野康隆取締役を講師に、日本における農業の重要性、農業の企業化の必要性、従事するやりがい、六次産業化の戦略等について説明を受けた。その後、農業を企業化するメリットと六次産業化をどのように発展させるかという課題についてグループワークを行った。学生たちの多くは、企業化すればもうかる農業に発展させることができる、企業化により農業従事者は、通常の会社員のように安定した賃金を受け取り週休2日を実現でき農業人口が増える、六次産業化は食の安全安心がキーワード、海外への輸出も視野に入れ国際感覚のある人材が必要等活発な意見がだされた。



8 のと共栄信用金庫の環境金融、創業支援等戦略的業務の体験・理解

金沢星稜大学

in のと共栄信用金庫 本店 9月4～8日

■目的

地方創生のグランドデザインである「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、産官学金労言士の連携による地方創生の推進がうたわれているが、中でも金すなわち地域金融機関の役割を重要視している。それは、地域金融機関の金融機能ばかりではなく、融資を希望する事業計画の将来性を見極め、伴走支援しながら起業に結び付けていく“目利き機能”を期待してのことである。石川県七尾市に本店がある「のと共栄信用金庫(のとしん)」は、地方創生に結びつく創業支援や環境金融に先進的に取り組んでおり、こういったのとしんの戦略的業務を体験することにより、地方創生を金融の面から支える地域金融機関の重要性の理解促進を図り、学生の地元定着、キャリアデザイン意識の向上を図ることを目的とする。

■出席者

6人(金沢星稜大学5人、教員1人)
 【受け入れ団体／地域サポーター】
 のと共栄信用金庫本店(七尾市松物町35番地)

■実施概要

- 1日目 ◎企業経営と地方創生、環境問題等についてレクチャー、ディスカッション
 ◎地域金融機関の役割と業務についてレクチャー、ディスカッション
- 2日目 ◎本店、支店の基本的業務についてレクチャー、実地見学
- 3日目 ◎なお創業応援カルテットについてレクチャー
 ◎創業応援カルテット融資企業 株式会社ワイディーハイナリー 実地視察
- 4日目 ◎ワークショップ 創業応援カルテット融資企業のSWOT分析、提案とりまとめ、プレゼン資料作成
- 5日目 ◎インターンシップの成果まとめ・発表

特徴的なプログラムとして、3日目に、七尾商工会議所、のと共栄信用金庫、日本政策金融公庫、七尾市の4者で創設した、「なお創業応援カルテット」の融資企業である、ワイディーハイナリー及び併設のレストラン「ふらんじゅ」を視察した。

4日目に「ふらんじゅ」のSWOT分析を基にした集客提案のワークショップを2班に分かれて実施した。

5日目にその成果発表を実施し、のと共栄信用金庫の執行役員、常務理事、各部長等十数人の方に参加いただき、貴重な意見やコメントをいただいた。

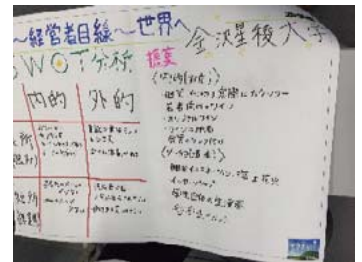


■ 結果・成果

ワークショップのアウトプットである、SWOT分析と集客提案書は、のど共栄信用金庫からの評価は高く、株式会社ハイディーワイナリーの株主総会の場で、のど共栄信用金庫から参考資料として関係者に提供することとなった。

学生の方も、信用金庫が地方創生に大きな役割を果たしていることを体験・理解し、信用金庫のイメージが大きく変わり、大変に有意義であったこと、自分たちの提案に金融機関の幹部が真剣に耳を傾けてくれたことに(緊張しながらも)感激したといった感想が大方であった。

本プログラムは昨年度から実施しているが、昨年度参加した学生が1人、のど共栄信用金庫へ就職している。今年度も就職を希望したいとする学生が1人出ており、この点からも成果を挙げていると考えている。



4 KITセミナー

いしかわで学ぶ地域志向プログラム in 白山麓

金沢工業大学

in 白峰地域交流センター 9月7~10日

■ 目的

全国各地に存在する里山地域における課題発見解決に取り組むプログラムを実施する。対象エリアである白山麓白峰地域に関する知識修得の場として、歴史資料館、丑首紬やとちもち生産の現場を視察し、白峰地域にまつわる様々な情報の収集と、現地の方々との意見交換を行う。

■ 出席者

5人

■ 実施概要

白峰地域の未来を創造するフューチャーセッションを行い、白峰地域の未来のあるべき姿から、バックキャストिंगの手法を用いて、現在何をすべきかについて具体化した。また、これらのストーリーの中で用いられるIoTデバイスについても創造し、その活用シーンに沿ってモックアップの製作に取り組んだ。

IoTデバイスについては、簡易的なプログラミングと回路を設計するツールを用いて行い、外部講師として招聘した講師による解説を受け、短期間での設計+開発に取り組むことができた。

最終的には、地域の方々に対してプレゼンテーションを行い、地域住民の方に対して明るい白峰地域の将来の姿を示すと共に、その実現に向けたプロセスならびに用いられるIoTデバイスの特長について説明を行った。



■ 結果・成果

地域住民の方々からは、都市部に暮らす人々と地域住民の方々の微妙な価値観の違いに触れ、ビジョンを共有することの重要性や、既存の課題の本質を掘り下げることの重要性についてフィードバックコメントをいただいた。学生にとっては里山地域での課題解決プログラムが、自身のエン



2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

ジニアとしての経験を積むことに繋がると共に、未来思考やデザイン思考の重要性について理解を深める機会となった。

5 アポテカプロジェクト

かかりつけ薬局とつくる私の健康

金沢大学

in 吉野谷公民館 12月2日

■ 目的

アポテカプロジェクトとは、平成29年度に新たに設置される中山間地（白山市吉野谷地区）の調剤薬局をフィールドにして、健康サポート薬局としての機能を果たしながら地域住民の健康管理や指導等、へき地医療を推進できる地域拠点のモデルを整備するもの。併せて、当該地域拠点において、地域医療の課題の理解やその解決に資する取り組みを学ぶインターンシップを開発し、関連する自治体とも連携し、地域を支える薬剤師や地域人材の地域定着に資する取り組みを推進する。

■ 出席者

8人

■ 実施概要

【主催】

金沢大学、白山市、いしかわ学生定着推進協議会

【協力】

株式会社コメヤ薬局、はくさんタニタ健康クラブ、
石川県薬剤師白山ののいち支部

13:00 挨拶

金沢大学理事・副学長 福森義宏
白山市長 山田憲昭

13:20 概要説明

金沢大学、株式会社コメヤ薬局、白山市

14:00 ミニ講演 「未病をなおす～普段の食生活から～」

金沢大学医薬保健研究域薬学系 准教授 佐々木陽平

■ 結果・成果

アポテカプロジェクトのキックオフイベントとして「かかりつけ薬局とつくる私の健康～中山間地住民の健康・笑顔・元気づくり薬局の構築～」を実施した。キックオフイベントでは、来場した地域住民、医療関係者に、アポテカプロジェクトの目的や概要、かかりつけ薬局の役割やその利用について説明した。また、金沢大学医薬保健研究域薬学系 佐々木陽平准教授が、「未病をなおす～普段の食生活から～」をテーマに講演を行った。

コメヤ薬局では金沢大学の薬剤師を目指す学生によるインターンシップを実施した他、金沢大学附属病院のスタッフらによる健康に関する相談や、体組成測定等の健康管理、タニタのキッチンカーによる地元食材を使用した健康あったか汁の提供などが行われた。

今後は、当該趣旨に賛同する企業を増やし、薬剤師を始めとするコ・メディカルスタッフの地域医療の課題理解と地域定着に向けたインターンシップを産学官連携で共同開発する。



6 留学生関連イベント

You are going to LOVE ISHIKAWA

金沢大学

in 金沢大学サテライト・プラザ 12月9日

■ 目的

留学生が石川県で就職を考える際に不安になる要素(家族、住まい、言葉、文化等)について、県内で就業する先輩留学生との交流により一つずつ解消し、地元定着に結びつけることを目指す。また、留学生採用に積極的な企業もしくは採用に関心のある企業と、留学生の輪を広げることで、留学生の地元就職意識を高めると共に留学生採用に関心を持つ企業を増やす効果も期待する。

■ 出席者

15人(金沢大学11人、北陸先端科学技術大学院大学2人、北陸大学2人)

【協賛企業】

株式会社スギヨ、佃食品株式会社、株式会社福光屋、株式会社奥能登塩田村

■ 実施概要

- 14:00 挨拶
- 14:10～ 特別講演
「My life in Japan starting from Ishikawa」
Ishikawa Tourism envoy / Deloitte Tohmatsu Consulting
Rachel Olanoff
- 14:50～ 協賛会社の紹介及びTasting Time
- 15:40～ パネルディスカッション
「How interesting!! To Live&Work in Ishikawa Japan」
- 16:30～ 県内企業自社製品のデモンストレーション
三谷産業株式会社、株式会社シーピーユー
- 17:15～ フリートーク

■ 結果・成果

本交流会に参加した留学生らは、先輩留学生の実体験を直接聞くことで、石川県で働くことや生活することについて、理解が深まった。また、協賛企業からの地元の食べ物の紹介や、自社製品のデモンストレーションなどを交えたことにより、地元企業のことを知る機会にもなった。「石川県で働きたいか」の問いには、今回参加した留学生のうち半数あまりが、石川県で働きたいと回答した。

【参加した留学生の交流会の感想】

- ・石川の企業に就職している先輩留学生の様々な体験を聞くのは大変面白かった。
- ・日本での仕事の探し方について、情報やアイデアを与えてくれた。
- ・日本でどのように生活しているか、日本の企業でどんな仕事に就いているかが聞けて、興味深かった。



Tasting Time



特別講演をする Rachel



パネルディスカッション



熱心に話を聞く留学生



自社製品のデモンストレーション

2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

7 みんなで創るスーパーレクチャ

コミュニケーションビジネス

金沢大学

in 金沢大学自然科学大講義棟大講義室 11月13日、12月11日、1月29日

- I 第1回「それでも、働く」
- II 第2回「十人十色 広がる「わたし」の可能性」
- III 第3回「人が動いちゃう秘密」

■ 目的

国内外で活躍する文化人やクリエイターを講師として迎え、自身の専門にひきつけて、地域ブランディングについて以下の視点でレクチャーしてもらう。それらの学びを通し、北陸のブランディングや地域定着について示唆を得る。

- ①キュレーター育成
身の回りにある地域の無形の社会文化資源に対する目利き力(キュレーション能力)の育成。
- ②デザイナー育成
新たな地域の無形資源をどのように発見し、デザインするかについて学ぶ。
- ③プロモーター育成
商材や資源をめぐる受け側と発信側とのコミュニケーションをどのようにデザインするか、どのようにブランディングするかについて学ぶ。

■ 出席者

- 第1回 149人
- 第2回 93人
- 第3回 98人

■ 結果・成果

本講義の学習目標である自分らしいビジョンを獲得するための下記5つ能動的な能力を身につける一端となった。

- ・自分らしさを考え Active Thinking
- ・掘り下げる Active Probing
- ・他者に伝え Active Expressing
- ・より広げ Active Saring
- ・続ける Active Advancing

【アンケート】

- ・自分の意見を人に伝える際反論をもらうことでかえって考えがまとまると聞いて積極的に発言できるようにしたいと思った。
- ・できないことが分かることで、第一歩が踏み出せたらという話を聞いて、なんでもプラスに考えられるようになった。『手段』と『目的』の逆転の話が非常に印象的だった。



8 キャリア支援プログラム(認定NPO法人キーパーソン21との連携)

わくわくナビゲーター養成研修(教職員向け)

金沢大学

in 金沢大学地域連携推進センター 2F講義室 3月26～27日

■ 目的

職員一人ひとりが学生と向き合い学生の「わくわく」する気持ちを引き出し、学生の主体性を育むことができることを目的として、認定NPO法人キーパーソン21の「わくわくナビゲーター養成研修」を県内8大学の大学職員に呼びかけ実施する。学生たちが自分で考え自分らしい未来を見つけるサポートをするため、「すきなもののビンゴ&お仕事マップ」のファシリテーターとしてプログラムが実施できるスキルの習得を目指す。

■ 出席者

14人(金沢大学教職員6人、金城大学職員2人、金沢工業大学職員5人、北陸大学職員1人)

【連携団体】

認定NPO法人キーパーソン21

■ 実施概要

【講習スケジュール】

3月26日(土) 10:00-17:00

- ・講座趣旨/わくわくエンジンの概念説明
- ・「すきなもののビンゴ&お仕事マップの体験」
- ・引き出しトレーニング

3月27日(日) 9:00-17:00

- ・実践トレーニング
- ・振り返り・フィードバック

■ 結果・成果

講習により、参加した職員らは、「わくわくナビゲーター」の「すきなもののビンゴ&お仕事マップ」の概念やプログラムの流れを理解し、実践練習を実施した。すべての講習を受講した12人の修了者については、今後「すきなもののビンゴ&お仕事マップ」を学生に対して実施することができることとなった。

参加者からは、「なぜ?と深く問いかけることによって、本人の本当の考えや想いを引き出せる。」「入学早期の学生に対して、充実した学生生活を送るための目標設定として活用してみたい。」等、今回学んだことを普段の学生対応も含めて即実践していきたいという声が上がった。今後、県内の大学生に向けてこのプログラムを連携して実施していく予定。



2.共創インターンシップ

【2】平成29年度

9 その他連携詳細

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
いしかわインターンシップ・交流会	いしかわインターンシップフェス	石川県、いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)	5月13日	1,686
	ジョブカフェのカフェ会①(学生交流会)		6月11日	20
	留学生と県内企業の交流会		6月15日	78
	ジモトのシゴト業界研究会(Uターン交流会)		8月11日	60
	理系限定 BtoB業界研究会		8月26日	7
	青空BBQ交流会		9月2日	70
	起業家×学生交流会		9月30日	18
	転がせ！サイコロトーク交流会		10月14日	44
	就活準備「Night Picnic」女子会		11月8日	48
	能登の魅力再発見交流会 のとのトーク		11月18日	25
	若手社員と学生の合同ワーク交流会 AIZAP ～AIに負けない働き方をコミット～		12月9日	9
	金沢機工業株式会社による「タイ料理、ロシア料理 クッキング交流会」		12月9日	18
	冬のインターンシップ業界研究フェス		12月26日	827
	本音トークランチ会 in 金沢		2月3日	24
	いしかわ企業・業界研究会		2月10日	306
	いしかわ就職フェア		3月10日	1,354
奥能登チャレンジ インターンシップ	【珠洲市】 U・Iターン希望者に対する市内企業の魅力発信！	能登キャンパス構想 推進協議会	8～10月	5
	【輪島市】 「輪島ふぐ」をブランド化するための徹底分析		8～10月	3
	【穴水町】 移住者にとって魅力あるまちづくり！		7～10月	3
	【能登町】 町内企業の魅力を町内の若者へ伝える		7～12月	3
能登・祭りの環 インターンシップ			8～9月	122
金沢市との連携事業	「金沢芸妓 お稽古風景見学会」・「伝統芸能体験学習会」	金沢市	7月1日～ 8月19日	26
	金沢の伝統芸能体験教室		8月1～4日	20
	企業見学会		8月24・25・28・ 29日	28
	若手金沢芸妓ティータイム交流会		11月8日	15
株式会社北國新聞社との 連携事業	ディスカバー北陸「北陸の未来力を育てよう」	株式会社北國新聞社	1月28日	12
ReachKanazawaとの連携事業		ReachKanazawa	通年	28

【3】平成30年度

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
1 いしかわ共創 インターンシップ	1 【いしかわ魅力発見バスツアー】能登町コース	金沢大学	7月1日	16
	【いしかわ魅力発見バスツアー】南加賀コース		7月7日	18
	【いしかわ魅力発見バスツアー】七尾コース		7月21日	23
	2 「能登町の未来を探る！」(能登町)		8月27～31日	2
	3 「南加賀の観光資源を世界に発信！」(南加賀)		9月3～7日	5
	4 「日本の原風景に眠る地域の宝を発掘！」(鉦打)		9月9～13日	3
	5 「“ごちゃまぜ”の街で、クリスマスパーティの企画・運営に挑戦！」(金沢)		11月26日～1月7日	5
	6 起業を目指す学生のための稲作農家インターンシップ	石川県立大学	9月10～12日	2
	7 白山ろくの暮らしと地域資源を知り、これらを強みとして地域振興を考える		12月18・19日	13
	8 のと共栄信用金庫の創業支援業務の体験と理解	金沢星稜大学	9月3・5～7日	7
2 KITセミナー	9 福祉現場体験型インターンシップ	金城大学	4月～9月	6
	1 社会に必要なグローバル人材になる最新事情	金沢工業大学	7月6日	11
	2 とりあえずやってみる！行動実践セミナー		7月17日	9
	3 ストーリーテリング勉強会		7月31日	21
	4 SDGs未来都市ハッカソン		9月12～15日	13
	5 農業の未来を学生と共に考える		12月17日	9
3 みんなで創る スーパーレクチャー	1 「21世紀の生き方講座」～自分らしい働き方を考える～	金沢工業大学	2月15日	16
	2 自分の働く姿を考える！	金沢大学	3月25日	50
4 家族向けプログラム	家族向け「キャンパス見学＆金沢市内観光ツアー」	金沢大学	3月24日	39
5 キャリア支援プログラム (認定NPO法人キーパーソン21との連携)	「自分だけの原動力 夢！自分！発見プログラム」(金沢大学生対象)	金沢大学	4月26日～6月14日	32
6 地域交流プログラム	五箇山インターンシップ	金沢大学	5月19日、9月15日	37
	能登のウエストコースト・志賀町ささなみ究極体験プロジェクト		8月25～27日	24
	鉦打杵旗祭り(地域活性化と祭り)体験		9月22・23日	10
7 その他連携				4,650
合 計				5,021

2.共創インターンシップ

[3]平成30年度

1 いしかわ共創インターンシップ

目的

いしかわで活躍する地域サポーター等の下で、人々の暮らしや生き方に触れ、地域の課題に自分事として向き合い、挑戦します。

1 いしかわ魅力発見バスツアー

金沢大学

I 【いしかわ魅力発見バスツアー】能登町コース

in 能登町 7月1日

目的

この夏実施する共創インターンシップに先駆けて、現地を訪れ、地域の魅力や地域で活躍する人の夢や志を伺う「いしかわの魅力発見バスツアー（訪問研修）」を3コース実施し、共創インターンシップへの参加につなげる。
能登町コースでは、人口減少の中で、能登町の未来を考え、夢と志を持って働き続ける人々のその暮らしと想いを、この町で生まれ育ち住み続けている人と移住者の2つの視点から伝え、このツアーを通して、この町の自然、魅力、文化に触れる。

出席者

16人（金沢大学15人、北陸大学1人）

【地域サポーター】

ライダーズハウス&カフェPEACE	大場小都美
ふくべ鍛冶	干場健太郎
数馬酒造	数馬嘉一郎
まちなか鳳雛塾	ふるさと振興課 網屋

実施概要

8:20 金沢大学発	
10:45 PEACE ライダーズハウス&カフェ	大場小都美
<昼食>	
12:30 数馬酒造	数馬嘉一郎
13:45 ふくべ鍛冶	干場健太郎
15:00 まちなか鳳雛塾	

●ライダーズハウス&カフェPEACE 大場小都美
金沢から50代で1ターンしたきっかけ及びその暮らしについて話を伺った。

●数馬酒造 5代目社長 数馬嘉一郎
能登の存続について危機感を持ちつつも能登の強みを生かし休耕田の活用など様々な取り組みへの挑戦について、話を聞いた。

●ふくべ鍛冶 4代目 干場健太郎
ふくべ鍛冶が行っている業務内容及びインターンシップの内容を伺った後、工場に場所を移し鍛冶職人の現場を見学した。

●町営塾 まちなか鳳雛塾
町が運営する学習塾、まちなか鳳雛塾を訪問。能登町役場の職員より、少子化のため町で唯一の



高校となった能登高校の存続のためにどのような取り組みを行っているか説明を受けた。

■ 結果・成果

参加した学生達は、能登町で活躍する人々から、能登町での暮らしやそれぞれの志について話を聞き、能登町が現在直面している課題や、能登町の人々が地域活性化のために様々な活動をしていることを理解した。

Ⅱ 【いしかわ魅力発見バスツアー】南加賀コース

in 小松市、加賀市 7月7日

■ 目的

南加賀コースでは、地域の企業や観光地などについて、地域で育まれた産業との関わり、つながりを通して理解を深め、当地域の観光や産業に興味をもつ機会とする。

■ 出席者

18人(金沢大学17人、北陸大学1人)

【地域サポーター】

石川県立九谷焼技術者自立支援工房	河内俊明
	塚林真理
里山自然学校こまつ滝ヶ原	山下豊
白鷺湯たわらや	田向公一
山中商工会女性部	辻芳子
タビト學舎	飯貝誠



■ 実施概要

8:20 金沢大学発
 10:45 石川県立九谷焼技術者自立支援工房
 12:30 <昼食> 里山自然学校こまつ滝ヶ原滝ヶ原石切り場・石材荒谷商店
 13:45 タビト學舎
 15:00 白鷺湯たわらや、山中商工会女性部

●支援工房九谷

支援工房九谷で行われている九谷作家の育成の取り組みや九谷焼の魅力等について理解し、実際に支援工房を利用している若手作家の工房を見学した。

●小松滝ヶ原石切り場

小松の産業の原点ともいえる石切り場を見学し、石の文化や歴史について説明を受けた。

●滝ヶ原自然学校

小松の里山の資源を体験できる里山自然学校こまつ滝ヶ原にて、里山の食材をふんだんに使用した昼食を食べながら調理していただいた地元の方々とも交流を図った。

●タビト學舎

加賀市で社会人と高校生が交流する塾「タビト學舎」を運営している飯貝誠氏を訪問。仕事を辞めUターンした経緯や「タビト學舎」での取り組み、夢について話を聞いた。

●山中温泉「白鷺湯たわらや」

田向常務より、観光地としての山中温泉の課題や取り組み等の話を聞いた。また、山中商工会の女性部の方から商工会の取り組みについて説明を受けた後、温泉街を散策した。



2.共創インターンシップ

[3]平成30年度

■ 結果・成果

参加した学生達は、伝統が受け継がれているのは、守るだけではなく時代に即した変化に対応し、新しい考え方を取り入れてきているからこそ、今も輝いていることを学んだ。そしてその活力が地元の人のみならず、他所からの人の力が地域活性化の一翼を担っていることを知った。

Ⅲ 【いしかわ魅力発見バスツアー】七尾コース

in 七尾市 7月21日

■ 目的

七尾コースでは、深刻な少子高齢化が進んでいるこの地域で、移住者の受け入れ等に力を注いでいる地元の方と、地元の人・自然・環境に惹かれて移住してきた方との2つの視点から地域で生きることについて関心を深める。

■ 出席者

23人（金沢大学19人、北陸大学1人、金沢工業大学1人、金沢星稜大学1人、金沢医科大学1人）

【地域サポーター】

美土里ネットなたち

村田正明

移住者

田谷樹、任田和真・祥子夫妻

能登島コミュニティセンター

菊地明暢（移住者）

■ 実施概要

8:30 金沢大学発

10:00 正覚寺見学 美土里ネットなたちの取り組み／インターンシップの説明

11:30 <昼食>

12:30 移住者との交流（田谷樹氏、任田和真・祥子夫妻）

14:00 能登島コミュニティセンター 菊地明暢

9月に鉾打で実施する共創インターンシップの事前ツアーとして、七尾市中島町、能登島の地域づくりの取り組み及び移住者等の話を聞いた。

●上島 正覚寺 見学

住職よりUターンのきっかけ、今後の寺と集落の関わり方について説明

・美土里ネットなたちの取り組みについて

・今年のインターンシップで手掛けること等

蜂屋准教授よりインターンシップの進め方について説明

●移住者との交流（上島集会所）

なぜ、この地に？なぜ、農業を？今後の目標、子供教育に不安はないか等、参加者から活発な質問が相次いだ

●能登島コミュニティセンター（七尾市能登島向田町ろ部8番地1）

地域づくり協議会の取り組み及びUターンのきっかけ等について説明を受けた後、実際に今年度手掛けている地域創生の中である八ヶ崎海水浴場の「まあそいカフェ」を見学した。



■ 結果・成果

Uターン者からの「自分が今まで故郷から受けていた恩を今度は自分が返すためにUターンしてきた」という話に、学生たちは就職することを収入や知名度だけで決めるのではなく、自分の社会での役割を考え“人生”という大きな視野で今後について考える必要があると感じたようだ。

2 能登町の未来を探る！（能登町）

金沢大学

in 能登町 8月27～31日

■ 目的

公務員を退職し、能登地方に1件しか残っていない鍛冶屋を継承した鍛冶職人が、地域の産業を守るため、地元に着目した販売・修理を行っている。その一方で、能登以外からの外貨を獲得し、地域に新しい産業を生み出すため、ニッチな分野で全国・世界に向けた商品企画・開発を積極的に行っている。

このインターンシップでは、鍛冶の現場だけでなく、地域の小学生を対象とした、道具を通して自然の中で「生きる力」を育むイベントの企画・運営や、町営のまちなか鳳雛塾での高校生との交流を通して、能登町に生きる様々な人々から見えてくる能登町の実情を理解し、能登町の未来を考える。

■ 出席者

2人（金沢大学）

【受け入れ団体／地域サポーター】

ふくべ鍛冶 干場健太郎

■ 実施概要

8月27日（月） オリエンテーション

まちなか鳳雛塾高校生との交流

8月28日（火） イベント準備・宇出津小学校ヒアリング

8月29日（水） イベント当日

8月30日（木） 移動販売・まとめ

8月31日（金） 移動販売・振り返り

1日目、町営の学習塾「まちなか鳳雛塾」にて、能登高校生と能登町の未来について考えるワークショップを開催し、能登町に住む高校生達が、自身の将来についてどのように考えているか、能登町の未来についてどのように考えているかを調査。

2日目、ふくべ鍛冶では、干場健太郎氏のもとで、職人の現場を体験。

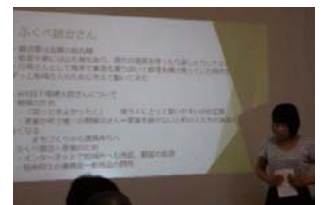
3日目には刃物という道具を通して自然の中で生きる力を育む小学生向けイベント「コドモのワークショッパ―鍛冶屋の仕事―」を開催。イベントの準備や企画・運営に携わった。

4、5日目は、移動販売に同行し、能登町の人々との交流を通して能登町での暮らしや課題、そしてコミュニティを実感した。

最終日には、①子どもの「生きる力」を育むための企画の提案、②能登町の現状や能登町の未来について考えたことを取りまとめる、という2つの課題について発表した。

■ 結果・成果

5日間の滞在を通して、能登町の人々と触れ合いながら地域の課題を考え、個人にとってプラスではなく、地域の人々にとって何が望ましいものなのかを自分事として捉え、広い視野を持つ一助となった。



2.共創インターンシップ

[3]平成30年度

3 南加賀の観光資源を世界に発信！（南加賀）

金沢大学

in 川北町・能美市・小松市・加賀市 9月3～7日

■ 目的

南加賀の4市町（川北町・能美市・小松市・加賀市）を巡りながら、観光地等、外国人旅行者が立ち寄る場所で来訪目的、滞在場所、交通手段等のヒアリングを行う。旅行者が増えないのは何が壁となっているのか等を調査し、インバウンド観光促進のための解決策を模索する。

■ 出席者

5人（金沢大学）

【受け入れ団体／地域サポーター】

小松商工会議所 吉田賢司

■ 実施概要

9月3日（月） AM オリエンテーション、PM 小松調査

9月4日（火） AM 加賀市調査、PM 山中温泉調査

9月5日（水） AM 川北町調査、PM 辰口温泉調査

9月6日（木） AM 能美市調査、PM 調査まとめ

9月7日（金） AM 調査まとめ、PM 発表

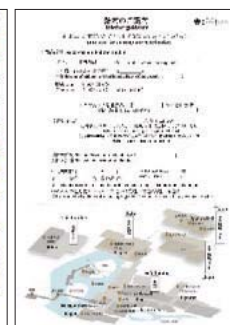
9月3日（月）～7日（金）石川県の南部に位置する川北町・能美市・小松市・加賀市の4つのエリアを総称した「南加賀」を対象に、観光資源を世界に発信するための課題解決に向けて、留学生を含む5人の学生が外国人観光客や観光施設等にヒアリング調査を実施した。

初日の午前中に人間社会研究域人間科学系丸谷耕太助教から日本の外国人観光客の動向等について講義を受け、南加賀の観光調査項目作成、調査のまとめ方等を話し合った。小松市的那谷寺をスタートに調査を開始した。

■ 結果・成果

調査を進めていくうちに外国人観光客や観光施設の方だけではなく、自治体のインバウンド観光の取り組みも把握する必要があることに気づき、能美市役所、小松市役所にヒアリングを実施した。その結果見えてきた課題や自分たちができる解決策をまとめ、最終日に小松商工会議所で報告会を開催した。

2019年1月21日（月）能美市辰口町で開催された南加賀フォーラムで「南加賀の観光資源を世界に発信！」と題して9月に実施した調査結果から見えてきた課題、解決方法の一例（コミュニケーションシート、動画）を報告した。なお、この共創インターンシップは南加賀商工観光推進協議会と連携して実施し、観光地等の移動は、「加賀の国観光グランキャブ」を利用した。



学生が作成したコミュニケーションシート

4 日本の原風景に眠る地域の宝を発掘！（七尾市中島町鉤打地区）

金沢大学

in 七尾市鉤打 9月9～13日

■ 目的

鉤打は5つの浄土真宗の寺が一地域に集中しているという、日本でも珍しい地域である。この5つの寺巡り（フィールドワーク）を通して、地域住民の生活に密着した寺の存在から、共同で行う農作業から、そして地方創生に汗を流す姿から「結」を感じ、鉤打の魅力を伝えるマップ作りを行う。

■ 出席者

3人（金沢大学2人、金沢工業大学1人）

【受け入れ団体／地域サポーター】

美土里ネットなたち 村田正明

■ 実施概要

9月 9日（日） オリエンテーション・集落散策

9月10日（月） フィールドワーク

9月11日（火） 美土里ネットなたち作業

9月12日（水） フィールドワーク・まとめ

9月13日（木） まとめ・発表

■ 結果・成果

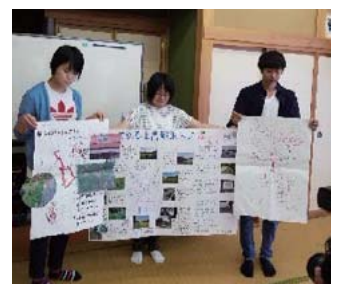
1日目は地域活性化に取り組む美土里ネットなたちについての概要を伺い、集落の散策を行った。

2日目はマップ作りのために、午前中は金沢大学地域連携推進センター蜂屋大八准教授からマップ作りのポイント等のレクチャーを受けた。その後雨の中、集落の方に案内をしていただきながら鉤打地区に眠るお宝を探すため散策を始めた。この雨がしっとりとした鉤打の寺の魅力の発見につながった。当初は、3人で1枚のマップを作成する予定だったが、それぞれに伝えたい魅力が違ったため、最終的にそれぞれのテーマで一人1枚のマップを作成することになった。

3日目～4日目 自分が感じた鉤打の魅力をどのようにマップに落とし込めば伝わるのか試行錯誤しながら、何度も写真を撮り直しルート作成を行った。そんな中、寺や道路で出会う集落の方と自然な会話が生まれ、温かさを感じると共にのびのびと楽しくマップ作りに取り組むことができた。

5日目3人それぞれが作成したマップ（サイクリングマップ、歩いてめぐり上島マップ、フィルムカメラと歩くなたち）の成果報告を集落の方に行った。

学生からは、鉤打の魅力は「美味しいものをじっくり噛みしめて味わうのと似ていると感じた」「参加した学生がそれぞれ違う魅力を感じていたのは、鉤打が様々な魅力に富んだ豊かな地域であるからだ」という感想があった。学生らは自然と共にこの地域独特の「結」に触れ、今までに感じたことのない人の寛大さ、温かさに心が動かされたようだ。



2.共創インターンシップ

【3】平成30年度

5 “ごちゃまぜ”の街で、クリスマスパーティーの企画・運営に挑戦！（金沢）

金沢大学

in シェア金沢 11月26日～1月7日

■ 目的

社会福祉法人佛子園が運営する金沢大学角間キャンパス近くにある“ごちゃまぜ”の街「シェア金沢」で、クリスマスパーティーの企画・運営に挑戦する。このイベントは毎年開催しており、施設内にある屋内グラウンドを会場に、ステージでの出し物や屋台など、シェア金沢の住人や利用者だけでなく、地域の方々も一緒になって楽しんでいる。今年は、学生のアイデアにより、地域住民や学生が参加しやすい企画を検討し、実施する。また、インターンシップの経験を通して、地域の交流の場づくりを考え、提案する。

■ 出席者

5人(金沢大学)

【受け入れ団体／地域サポーター】

社会福祉法人 佛子園／share金沢 館謙太郎

■ 実施概要

11月26日、28日	オリエンテーション・インターンシップ概要説明
11月30日～12月22日	シェア金沢での企画検討 イベントの企画・準備 佛子園職員によるクリスマスパーティー実行 委員会の出席(11月28日、12月12日)
12月22日(土)	事前準備
12月23日(日)	クリスマスパーティー 企画運営
1月7日(月)	振り返り・報告会

■ 結果・成果

佛子園の理念や法人の概要・歴史、そして今回のインターンシップで実施する内容についての説明を受けた後、シェア金沢の施設を見学しながら、施設の概要や特徴について説明を受けた。

また、インターンシップ期間中には、シェア金沢内のサービス付き高齢者住宅(サ高住)や障がい児の入所施設等を見学し、実際の入居者らと交流した。サ高住では、クリスマスの飾りの作成を一緒に行い、入居の動機やシェア金沢での生活の様子等を理解した。一方、障がい児の入居施設では、本来は自立を目指したいが、安全のためシャッターや鍵をかけざるを得ない実態を知り、福祉現場の理想と現実を目の当たりにした。

期間中、佛子園のクリスマスパーティーの実行委員会に2回出席。自分たちの企画「願い事ツリー」の提案を行い、職員から意見・指摘をもらった。また、佛子園法人全体の会議に参加したことで、様々な部署が集まり一つの物事を決定していく過程を間近に見ることができ、貴重な経験となった。このインターンシップをきっかけに、日常的に学生がシェア金沢を訪れ福祉の現場を調査及びボランティア活動をする仕組みができた。



オリエンテーションの様子



実行委員会の様子



施設を見学する様子



企画の準備をする学生ら



振り返りの様子



企画した願い事ツリー

6 起業を目指す学生のための稲作農家インターンシップ

石川県立大学

in 橋竜伊商店の圃場・作業場(志賀町稲敷) 9月10~12日

■ 目的

学生の石川県内定着を図るには、企業への就職だけでなく、起業の促進も重要である。橋竜伊(ハシタツヨシ)商店は野々市市にあり、個人経営であるが能登において米を生産するとともに、自家米を原料とした日本酒製造を行い、生産した米と酒を県内外で販売している。店主の橋竜伊氏は農家出身者ではないが、大学卒業後、石川県内の農業法人に就職し、その経験を踏まえて起業した経験を有しており、ジョブカフェ石川の農業分野のシェルパー講師を10年以上務めている。学生にも農業分野での起業を期待している。最近では、経営の安定を図るために、稲作での副産物を飼料として活用した低コストヒツジ生産の導入にも意欲をみせており、「先のみえる」経営者である。平成29年度に学生が稲作体験を行いながら橋氏との触れ合いのなかから起業を行うために必要な事柄を学ぶインターンシップを実施したところ、学生が農業起業に興味を抱くようになった。そこで、本年度はさらに学生数及び農業起業の体験談の時間を増やししながら同様の取り組みを実施する。



■ 出席者

2人(金沢大学)

【受け入れ団体／地域サポーター】

橋竜伊商店 代表 橋竜伊

■ 実施概要

9月10日(月)

雨天であったために、室内で圃場・農場での作業説明を行った。その後、水田と畑を見学しながら作業の追加説明をした。随時質問を受けながら、橋氏のこれまでの農業経験についても話してもらった。

9月11日(火)

稲刈り、粃摺り、モミガラの水田への運搬の実習を行った。また、近くの農家への米の配達も行った。夜に反省会を行い、学生から質問を受けた。その中で橋氏にこれまでに行ってきた体験と農業で儲けを出すために実行していることを伝えてもらった。

■ 結果・成果

農業による地域活性化に興味を持つ学生を受け入れて、米収穫などの作業を行いながら、橋氏から農業起業に至った経緯や農業経営に関する話をしてもらった。

【学生の感想】

橋さんの経営はとにかくコストに対する意識が高く、効率の良い働き方を模索されているのが印象的でした。なんでもご自分でできるように勉強されていたこと、いかに最終的な利益を大きくするかを考えておられることがすばらしいと思いました。

橋さんのお話を聞いて、農業もやり方次第で利益を上げることができる。大事なことはコストを考えること、常にどうすればいいか考えることが重要であることを教えていただき、農業に対するイメージが変わりました。



参加した学生には経営の根幹である「コスト」、「利益追求」についての意識付けが強くなされ農業起業への興味を深めることとなった。

2.共創インターンシップ

【3】平成30年度

7 白山ろくの暮らしと地域資源を知り、これらを強みとして地域振興を考える

石川県立大学

in 白山市白峰地区 12月18・19日

■ 目的

石川県において、奥能登や白山ろくでは、少子高齢化が進み、著しい人口減が起こっている。また、耕作放棄地の増加に伴う鳥獣被害が増加し、大きな問題となっている。しかし、このような過疎地には、在来野菜や雑穀、食用となりうる獣、それらを利用した伝統食品などが残っており、これらの資源を活用した地域振興が可能と思われる。また、このような取り組みは、近年のインバウンドの増加等を鑑みても、十分にビジネスとなりうるポテンシャルを含んでいるが、そのことを理解しビジネスモデルを構築する人材がいけないことも事実である。

本共創インターンシップでは、学生に対し、白山ろくの暮らしや文化を体験させると共に、ビジネスとなり得る地域資源とその有効活用についても学習させる。さらに、地域資源の有効活用に関し産学官連携がいかに有効であるかについても理解させる。これらの取り組みを通して、地域資源がビジネスになることを理解させ、就業の選択肢につなげることを目的とした。



■ 出席者

13人(金沢大学8人、石川県立大学5人)

【受け入れ団体／地域サポーター】

NPO法人白山しらみね自然学校 理事 山口隆

■ 実施概要

12月18日(火) 概要説明(白峰地域について)

～街並み散策～

・白山砂防科学館の見学

・牛首紬の見学

12月19日(水) 生活環境の視察

・白峰保育園

・特別養護老人福祉施設

グループワーク

白峰地域の未来・持続性について、住民

と共に考える

1月8日(火) 振り返り・報告会



概要説明の様子



街並み散策



牛首紬の見学



グループワークの様子

■ 結果・成果

学生たちは皆、当該関係者の想いに触れ、白峰地域住民の現状および生活環境を学ぶことができた。特に、2日目に実施したワークショップにおいては、名物である雪だるま祭りの強化やSNSを用いた宣伝活動の改善など、実社会への実装に近い多くの提案があったことから、過疎化の進む白峰地域の切迫した現状を痛感したことが伺える。また、これら過疎化地域の暮らしを守り次世代の人類活動へと継承していくことの責任についての議論が活発にされており、民泊制度を利用した空き家の有効活用や、周囲の自然環境を楽しむ提案など、白峰地域の暮らしを永续させるためのアイデアも多く立案された。

【学生の感想】

想像以上の田舎で、少子高齢化が進んでいる一方で、地域の課題を解決しようとする若い人たちがいて希望があると感じた。住民の白峰愛が強く、地元を盛り上げようという意識がすごく、また横のつながりが密だと感じた。地域のために働くとはどういうことかを目の当たりにし、働き方として大変刺激になった。

「白峰」という小さなコミュニティの中で経済の仕組み(お金の流れ)を実感することができた。



振り返りの様子

8 のと共栄信用金庫の創業支援業務の体験と理解

金沢星稜大学

in のと共栄信用金庫 本店 9月3・5～7日

■ 目的

地方創生のグランドデザインである「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、産官学金労言の連携による地方創生の推進がうたわれているが、中でも「金」すなわち地域金融機関の役割を重要視している。それは、地域金融機関の金融機能ばかりではなく、融資を希望する事業計画の将来性を見極め、伴走支援しながら起業に結び付けていく“目利き機能”を期待してのことである。石川県七尾市に本店がある「のと共栄信用金庫(のとしん)」は、地方創生に結びつく創業支援に先進的に取り組んでおり(まち・ひと・しごと創生本部の大臣表彰受賞)、こういった、のとしんの戦略的業務をインターンシップ生が体験することにより、地方創生を支える地域金融機関の重要性の理解促進を図り、学生の地元定着、キャリアデザイン意識の向上を図ることを目的とする。

■ 出席者

7人(金沢星稜大学6人、教員1人)

【受け入れ団体／地域サポーター】

のと共栄信用金庫本店

■ 実施概要

- 9月3日(月) 企業経営と地方創生、起業支援等についてレクチャー、ディスカッション
地域金融機関の役割と業務についてレクチャー、ディスカッション
本店、支店の基本的業務についてレクチャー、実地見学
- 9月4日(火) 台風21号の接近のため休業
- 9月5日(水) ななお創業応援カルテットについてレクチャー
南大呑地区実地調査
- 9月6日(木) ワークショップ 「大呑ハウス」の事業計画策定
・事業内容の企画(客層、客単価、需要予想なども含んだ事業計画)
・必要経費の見積もり(イニシャルコスト、ランニングコスト)
・資金調達計画
- 9月7日(金) のとしん幹部職員、大呑地区関係者等へのプレゼンテーション(成果発表会)



■ 結果・成果

特徴的なプログラムとして3日目に、七尾市・南大呑地区と共栄信用金庫が日本財団の「わがまち基金」からの助成を受けて取り組んでいる地方創生のための活動の調査に行き、同地区からの要望に基づき、同地区の活動拠点「大呑ハウス」を活用した事業計画を立案し(2班に分かれて実施)、その成果発表会を5日目に実施した。

成果発表会には、のと共栄信用金庫の鈴木理事長

をはじめ、執行役員、常務理事、各部長等さらには大呑地区の関係者を含め十数人の方に参加いただき、貴重な意見やコメントをいただいた。ワークショップのアウトプットである事業計画に対する参加者からの評価は高く、実際の事業計画にも反映させることとなった。

学生の方も、信用金庫が地方創生に大きな役割を果たしていることを体験・理解し、信用金庫のイメージが大きく変わり、大変に有意義であったこと、自分たちの提案に金融機関の幹部が真剣に耳を傾けてくれたことに(緊張しながらも)感激したといった感想が大方であった。



2.共創インターンシップ

[3]平成30年度

9 福祉現場体験型インターンシップ

金城大学

in 石川県産業展示館及び県内福祉関連施設 4～9月

■ 目的

福祉を担う人材不足が深刻な状況となっている。平成30年度インターンシップフェスにおいて、福祉系の学生だけでなく学部を問わず広く学生に福祉（特に高齢者施設介護経験）の現場を就業体験させることにより、超高齢化社会に向かう日本の現実を目を向けてもらい福祉の担い手としての進路選択の一助とする。

福サポ石川職場体験受入事業所を対象にインターンシップ受入可能な事業所を募集して、金城大学が事業所と学生のマッチング窓口となる。なお、この事業は、石川県健康福祉部厚生政策課と協働で実施する。

■ 出席者

6人（金城大学4人、北陸先端科学技術大学院大学1人、小松短期大学1人）

■ 実施概要

4月上旬	福サポ石川職場体験受入事業所及び金城大学実習施設約800事業所にインターンシップ受入案内状送付
4月中旬	受入希望集約
4月下旬	インターンシップフェス当日内容及びマッチングからインターンシップ受入・実施報告等事業所に対して説明会実施
5月12日（土）	インターンシップフェス出展
5月下旬	マッチング完了
8～9月中旬	福祉現場体験型インターンシップ実施
9月下旬	学生報告書集約 受入事業所報告集約 → ジョブカフェ石川への報告

■ 結果・成果

- ①「福サポ石川職場体験受入事業所」を対象に学生のインターンシップ受入可能な事業所を募集した。計画では、本学実習・就職先も含め約800通程度発送予定であったが、リスト整理に時間的余裕がなく441通の発送となった。また、体験受入事業所は、17法人73事業所となり昨年の59事業所から14事業所増加した。
- ②5月12日（土）いしかわインターンシップフェスに参加した。当日のブース訪問学生数は35人。昨年度ブース訪問数をカウントすることを失念していたので、前年度と今年度の比較は数値化できないが、明らかに訪問した学生数は増加したと推測している。
- ③学生と福祉現場のマッチングを実施した。

体験学生数6人（金城大学4、他大学2〈含留学生1〉）

インターンシップ体験者は6人だけであったが、フェス当日も含め福祉系分野の学生だけでなく、学部を問わず広く学生に福祉（特に高齢者施設介護経験）の現場を認知させる当初の目的を達成できた。

次年度以降も継続して取り組むことでこの事業をより発展させ、福祉人材養成施設の人材確保はもちろんのこと、他学部・分野からの人材確保に寄与していく。



2 KITセミナー

1 社会に必要なグローバル人材になる最新事情

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパス パフォーミングスタジオ 7月6日

■ 目的

地方でも必要とされるグローバル人材とは何かについて、国際教育事業コンサルタント星野達彦氏に海外の情報を提供いただきながら、学生同士の意見交換を通して、グローバル人材について考える。

■ 出席者

11人(金沢工業大学8人、金沢大学1人、金沢星稜大学1人、北陸大学1人)

■ 結果・成果

【アンケート】

- ・海外へ行くメリットが分かった。
- ・留学について、なぜ必要になっていくか、他国はどんな現状か知り、留学について認識を深められた。



2 とりあえずやってみる！行動実践セミナー

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパス パフォーミングスタジオ 7月17日

■ 目的

行動実践力をつけるために、石川県内で起業している株式会社ガクトラボ 仁志出憲聖氏に、金沢大学在学中に行動していたこと、まちづくり、ネットワークづくりをどのように行っていたのか講演いただく。また、行動の実践の場として、野々市市の事業を取り上げ、野々市市民からの情報提供をもとに行動するイメージと、行動意欲を高める。

■ 出席者

9人(金沢工業大学7人、金沢星稜大学2人)

■ 結果・成果

【アンケート】

- ・起業に対してもしっかりとやっていたが、結構、今しなちゃいけ



4 SDGs未来都市ハッカソン

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパス アントレプレナーズラボ、白山麓キャンパスイノベーションハブ 9月12～15日

■ 目的

イノベーション教育先端未来都市の実現と経済の環境の循環モデル実装都市の実現、海外向けサービス創出都市の実現を目指す。

■ 出席者

13人

■ 実施概要

平成29年6月に白山市は内閣府によりSDGs未来都市に認定され、SDGs未来都市ビジョンを掲げている。SDGsの文脈の中で、白山市の持つ歴史・文化・自然環境などのリソースをどう活用していくことができるか、また、里山地域が抱える社会課題解決に向けてどのような取り組みを行うことができるかということを学生と企業の方々がチームを組み話し合った。イベントで終わらずに継続的な新規事業開発プロジェクトへと発展させる座組みを構築し、白山市に提言することが今回のハッカソンの目的であった。

ハッカソンとは「ハッキング」と「マラソン」の言葉を組み合わせたプログラミング主体のイベントであり、学生や他企業同士でチームを構成しそれぞれの組織の強みを活かしたアイデアを出し合った。またアプリ開発者やWebデザイナー等の多方面の方々にもメンターとしてお越しいただき、違った視点からのアドバイスを提供していただいた。

参加者はチームごとにアイデアを出し合いモックアップの制作を行った。今回のハッカソンでは新しく、かつ現実的に白山麓で実証できそうなアイデアが多く飛び交っていた。事業のスタートアップ支援を行っているVanguard Industries株式会社山中聖彦氏の基調講演や、本学のSDGsプロジェクト参加学生によるカードゲームを行うなど、アイデアの具現化を参加者により意識してもらう仕組みを多く設けたことも参加者に好評であった。

最終日には9つのチームによる成果物の発表が行われた。白山市の企画振興部の方々にもお越しいただき各チームのプレゼンテーションに対するコメントをいただいた。どのチームからも独創的なアイデアが飛び出していた。白山市の方々をはじめとする審査員の方々により複数の賞が設定され、最後に講評も含む授与が行われた。

イノベーションハブを取り巻く白山麓の環境の中に点在する課題をチャンスととらえてもらうことができたようで、白山市SDGs未来都市の枠組みの中で今後取り組んでいく可能性のあるアイデアがいくつも創出された。大学として学生、企業、行政、地域住民それぞれを円滑に繋ぐハブとなり、アライアンスを構築しながら、今後もアイデアの実装を行っていく予定である。

SDGs未来都市ハッカソン
主催：金沢工業大学
2018.9.12(水) - 15(土)
場所：金沢工業大学
アントレプレナーズラボ (12日)
扇が丘キャンパス 〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1
イノベーションハブ (13-15日)
白山麓キャンパス 〒920-2331 石川県白山市麓戸原3-1

石川県内の大学生対象 10名(先着順)
参加費無料 ※別途、食事代・懇親会代の実費(6千円程度)が必要です
※期が近いため白山麓キャンパスは送迎バスを準備します

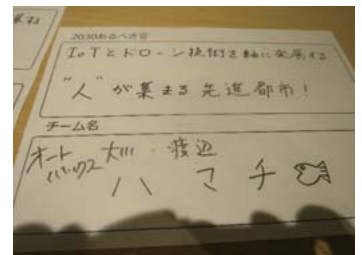
■お申し込み
isp@kanazawa-it.ac.jp (金沢工業大学 連携推進課)
件名: SDGsハッカソン
内容: 学校名、学部・学科、学年、氏名(ふりがな)、メールアドレス、電話番号
申込締切: 平成30年9月3日(月)
※お問合せ・ご質問は上記のメールアドレスまたは076-294-6740(連携推進課 直通)までお問い合わせください。

KIT 金沢工業大学

■SDGs未来都市ハッカソンのプログラム

12日 DAY1	14日 DAY3
13:00 ハッカソンに向けた事前勉強会	9:00 アイデアソン開始 メンターからのサポート
17:00 DAY1 終了	11:00 アイデアソン発表
13日 DAY2	15日 DAY4
9:00 事前勉強会(地域)	9:00 ハッカソン開始 プレゼンテーションの準備
12:00 休憩(昼食)	12:00 休憩(昼食)
13:00 白山麓キャンパスへ移動(バス)	13:00 最終発表発表
14:00 到着・オープニング	16:00 クロージング
14:30 インブット(白山市SDGs未来都市について)	18:30 終了
15:00 昼食(昼食)	
15:30 アイデアソン開始	
18:00 中間発表	
18:30 DAY2 終了	

■事前勉強会
テーマ①「IoTとAI」
Leap Mind株式会社 渡辺 一矢氏
テーマ②「Webアプリケーション」
株式会社ジョイソー 山下 竜氏
■基調講演「アイデアを形にする(仮)」
Vanguard Industries株式会社
President, CEO 山中 聖彦氏



2.共創インターンシップ

【3】平成30年度

5 農業の未来を学生と共に考える

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパス アントレプレナーズラボ 12月17日

■ 目的

人口減少・人手不足により課題の多い地方での農業分野について、若者による次代を見据えた在り方について考えることを目的としている。

■ 出席者

9人

■ 実施概要

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の理事・波積大樹氏をお迎えし、我が国における農業に関する先端技術の利活用促進の事例や、その中で求められる人材像について基調講演をいただいた。

その基調講演を踏まえ、地方創生の文脈の中で、地域の様々な活動に対するお手伝いを学生が実践する事業を推進する株式会社おてつだびの永岡氏、県内企業の課題解決を学生インターンシップを通じて取り組む事業を推進する株式会社ガクトラボの仁志出氏、石川県内でレンコン農家を営むと共に、SDGsの観点から経済・地域社会・地域の自然環境の調和に取り組む農事組合法人Oneの宮野氏によるパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションの中では、農業を単なる作物等を生産する産業として捉えるのではなく、地域の安全安心や地域の食育、地域コミュニティの活性化等の様々な役割を担う地域の担い手として捉えていくことが重要と強調されていた。また、高齢化が進む一次産業においては若者の役割が重要であることから、単なる農業体験ということではなく、新しい技術や価値観を有する中で既存の農業と今後の農業のあるべき姿を同時に見据えることで、農業の場が次代を見据えたインターンシップの場になるという、パネリストの共通認識を確認することができた。

■ 結果・成果

参加していた学生にとっても、これまでの農業に対する一般的な理解ではなく、次代を見据えた農業の在り方農家の方々と共にインターンシップという機会を通じて深掘りし、理解を深めていく良い機会になったと考えている。



地(知)の拠点 共創インターンシッププログラム
農業の未来を学生と共に考える

日時：2018年12月17日(月)
17:00~18:30
場所：金沢工業大学 アントレプレナーズラボ
申込：isp@kanazawa-it.ac.jp (連携推進課)
 件名：「農業の未来を考える」申込
 本文：①氏名 ②学校名 ③学部・学科 ④学年 ⑤メールアドレス
 申込締切：平成30年12月15日(土)

■基調講演： 国立研究開発法人
 農業・食品産業技術
 総合研究機構農研機構
 理事 波積 大樹 氏
 ご挨拶
 平成28年4月 農林水産省訪問
 平成29年7月 厚生労働省人材開発統括官付参事官
 平成30年3月 農林水産省大臣官邸附

■パネルディスカッション
 テーマ：農業未来×地方創生×学生
 農業の未来について地方創生の文脈のなかで学生と共にディスカッションを行います

株式会社おてつだび
 代表取締役CEO
 永岡 崇 氏

株式会社ククトラボ
 代表取締役
 仁志出 崇 氏

農事組合法人One
 宮野 義隆 氏

【お問合せ】 金沢工業大学 産学連携局 連携推進課
 E-mail: isp@kanazawa-it.ac.jp 電話: 076-294-6740

3 みんなで創るスーパーレクチャー

1 「21世紀の生き方講座」～自分らしい働き方を考える～

金沢工業大学

in 金沢工業大学扇が丘キャンパス アントレプレナーズラボ 2月15日

■ 目的

- ・将来の生き方や未来に対応した価値観を広げ、自らの人生を主体的に考える
- ・講師の人生観や職業観を直接伺い、どのように人生を選択するか、学生時代に何をすべきかを考える

■ 出席者

16人(金沢工業大学12人、金沢大学4人)

■ 結果・成果

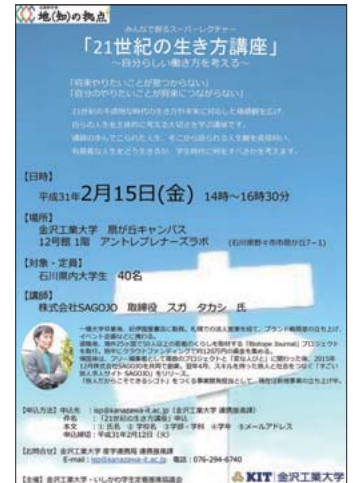
【アンケート】

- ・安定しない生活、社会の中で何を重視して生きているのか、他人の生き方の中で気づきが欲しかった。
- ・やりたいことと好きなことは必ずしも一致しないことに気づかされたのは、すごく自分のためになった。

今回の講演会は、「21世紀の生き方講座」という進路セミナーをイメージするタイトルだったためか、3年生の参加率が高かった。講師が会社員等ではなく特殊な職業の方をそろえたことで、興味をもってくれた学生もいた。申込者があまり多くなかったのも、座談会のような気軽に発言できる会にしたいと思っていたが、まじめなおとなしい学生が多く、最後の質疑応答の時間以外は静かに話を聞いていた。

最初のスガ氏の講演では、大学時代どのような生活を送っていたか、就職したが世界の旅に出たきっかけ、旅の資金を集めるために友人と動画を作成したこと、その後「SAGOJO」を立ち上げるようになった流れをお話いただいた。世界1周の旅は退職や休職しなければできないと考える日本人が多いが、時期を待たなくてもやろうと思った時に出来るという考えは、学生にも印象に残ったと思う。トークセッションでも4人の講師の今に至るお話を聞かせていただいたが、大学で学んだことと今の職業は直結しておらず、自分の好きなことや性格、生活習慣に合う仕事をされていることが現代的だと感じた。就職活動では売り手市場ということもあり、学生にとっては選択肢が広がっている。実際、学生から大手企業がベンチャーかどちらか迷っているという質問も出ていた。大手は勤務時間が固定であったり、査定があったりするもので、ベンチャーの自由な雰囲気に魅力を感じがちだが、実際のベンチャー企業で人材教育まで人手と時間のある企業は少ないと現実的な面を知ることが出来た。就職活動は大手や有名企業に行くことや、都会にできるか地元に残るかという点が注目されがちであるが、実際は自分にはどのような分野があるのか、世の中にはどのような働き方があるのかという根本的な部分で悩んでいる学生が多くいると思う。

大学として、どのような選択肢があり、学生の進路決定のサポートが出来るようにしたい。また、県内(地方)でもいろいろな働き方があるという提示が出来るような機会を設定したいと考えている。



2 自分の働く姿を考える！

in 金沢大学人間社会第2講義棟401講義室 3月25日

■ 出席者

50人(学生26人、社会人24人)

■ 実施概要

第一部 講演会「自分らしい人生を自分でデザインする」

登壇者 株式会社ファンリーシュ 代表取締役兼CEO 志水静香

第二部 トークセッション「自分の人生の主役は、自分」

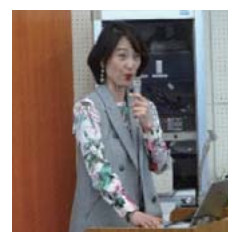
登壇者 志水静香

明和工業株式会社 金原竜生

ファシリテータ 認定NPO法人キーパーソン21

代表理事 朝山あつこ

第一部では、人材開発の第一線で活躍する株式会社ファンリーシュの志水静香氏が、「自分の人生を自分らしくデザインする」と題して講演。これからの時代は会社のラベルで生きるのではなく「個」の時代であること、そして、誰かと比較することなく「オリジナル」な自分の人



第一部で講演する志水氏



第二部 トークセッションの様子



トークセッションで登壇する本学卒業生 金原氏



参加者集合写真

5 キャリア支援プログラム(認定NPO法人キーパーソン21との連携)

自分だけの原動力 夢！自分！発見プログラム

金沢大学

in 金沢大学 4月26日、6月9・14日

■ 出席者

32人

■ 目的

就職活動やインターンシップ応募前に自分と社会について考える機会とし、今後の主体的な活動に活かすことを目的とする。

■ 実施概要

自分の好きなものと世の中の仕事がつながっていることに気づかせ、ワクワクする気持ちをひき出し、主体性を育むグループワークをゲーム感覚で行う。

■ 結果・成果

自分の好きなことから仕事につなげていくという経験がなかったので新鮮だった。自分のワクワク、楽しいに「なぜ」をぶつけて言語化するのは困難だった等、自分に正直に向き合う時間となり、固定観念を取り去る一助となったようだ。

6 地域交流プログラム

地域交流プログラム

金沢大学

I 五箇山インターンシップ

in 富山県南砺市相倉 5月19日、9月15日

■ 出席者

37人

■ 実施概要

学生は世界文化遺産である五箇山相倉合掌造り集落内で現地スタッフのアドバイスを受けながら昔ながらの手作業で田植え、稲刈り・ハサ掛けを体験した。

・5月19日 みんなで農作業の日「田植え」

・9月15日 みんなで農作業の日「稲刈り・ハサ掛け体験」

II 能登のウエストコースト・志賀町ささなみ究極体験プロジェクト

in 志賀町笹波 8月25～27日

■ 出席者

24人

2.共創インターンシップ

【3】平成30年度

Ⅲ 鉦打杵旗祭り(地域活性化と祭り)体験

in 七尾市中島町鉦打地区 9月22～23日

■出席者

10人

■実施概要(全体)

学生らは神輿やキリコの担ぎ手としての祭礼への参加、農業体験・民泊体験をとおして、地域住民との交流を深めながら、能登の地域資源の有効活用や将来に向けての課題への理解を深めた。

■結果・成果(全体)

学生らは地域の人々との交流を図ると共に、過疎化が進む“地域の持続可能性”について考えるきっかけとなった。

7 その他連携詳細

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
いしかわインターンシップ・交流会	いしかわインターンシップフェス	石川県、いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)	5月13日	1,587
	デジタル花見会(お花見交流会)		5月26日	21
	BtoB Night(ものづくり企業との交流会)		6月16日	22
	アントレプレナーズナイト交流会		6月23日	23
	グローバル交流会		7月21日	16
	業界&企業研究会		7月21日	12
	ジモトのシゴト研究会		8月11日	33
	青空ランチミーティング		9月2日	87
	のとのトーク		9月10日	15
	グローバル交流会②		10月20日	11
	ワークライフバランス交流会		10月27日	8
	就活準備 女子会		11月7日	50
	就活準備 男子会		11月10日	11
	福祉業界×学生交流会①		9月25日	16
	福祉業界×学生交流会②		11月17日	6
	100年時代の働き方を考えるAIZAP		11月18日	10
	冬のインターンシップフェス		12月27日	828
	放談会議		1月19日	9
	いしかわ企業・業界研究会		2月11日	272
	いしかわ就職フェア		3月9日	1,330

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
奥能登チャレンジ インターンシップ	【珠洲市】 大学生が身近に感じる企業を増やそう	能登キャンパス構想 推進協議会	7～12月	3
	【輪島市】 インバウンド受入体制底上げ作戦		8～11月	3
	【穴水町】 イベントマーケティングにチャレンジ		8～3月	4
	【能登町】 能登町の未来をデザインする(中学校の授業で実施)		7～2月	4
能登・祭りの環 インターンシップ			8～10月	164
金沢市との連携	金沢百万石祭り情報発信隊	金沢市	5月中旬 ～6月3日	4
	金沢芸妓のほんものの芸にふれる旅		2月16日	24
金沢青年会議所との連携	KANAZAWA INNOVATION PROGRAM	金沢青年会議所	5月12日 ～11月24日	24
	ふるさとENJOBLIFE		6月9日	21
Reach Kanazawa		Reach Kanazawa	通年	32

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
1 いしかわ共創 インターンシップ	1 《加賀エリア》地域活性化型インターンシップ 街中の空き物件の活用プロジェクト&ランプ シェードによる街中活性化	金沢大学	8月20～24日	3
	2 《加賀エリア》企業体験型インターンシップ モノづくりの魅力を学生にどのように伝えるか		9月2～6日	2
	《加賀エリア》企業体験型インターンシップ 人が集まる酒蔵活用プランニング		9月2～6日	4
	3 《能登エリア》地域活性化型インターンシップ 伝えたい・つなぎたい能登の職人の心意気に触 れる		8月27日 ～9月1日	1
	《能登エリア》企業体験型インターンシップ 若者にとって魅力のある農業を創る		9月9～13日	3
	《能登エリア》企業体験型インターンシップ 若者にとって魅力のある漁業を創る		9月9～13日	2
	《能登エリア》企業体験型インターンシップ ブランディングのための広報戦略		9月9～13日	5
	5 共創インターンシップ報告会		12月11日	14
	6 白山ろくの暮らしと地域資源を知り、これらを 強みとして地域振興を考える	石川県立大学	9月19～20日	8
	7 農福連携事業への理解を深めるためのイン ターンシップ		9月19～21日	3
	8 のと共栄信用金庫の創業支援業務の体験・理解	金沢星稜大学	8月26～30日	5
2 KITセミナー	1 グラフィックレコーディング講座 白山麓 SDGs未来都市編	金沢工業大学	9月9～10日	23
	2 トークンエコノミー講演会		9月28日	22
3 みんなで創る スーパーレクチャー	1 ライフプランイベント「5年後10年後のライフ論」	金沢大学	12月20日	42
	2 2040年の仕事論+ ～つまらない人生過ごすなよ～		1月24日	94
4 地域交流プログラム	五箇山インターンシップ	金沢大学	5月19日、 9月21日	46
	能登のウエストコースト・志賀町ささなみ究極体験 プロジェクト		8月24～26日	18
	鉾打杵旗祭り(地域活性化と祭り)体験		9月22～23日	18
5 その他連携				2,506
合 計				2,819

1 いしかわ共創インターンシップ

目的

いしかわで活躍する地域サポーター等の下で、人々の暮らしや生き方に触れ、地域の課題に自分事として向き合い、挑戦します。

1 《加賀エリア》地域活性化型インターンシップ 街中の空き物件の活用プロジェクト&ランプシェードによる街中活性化(小松市) 金沢大学

in 小松市稚松校下周辺 8月20～24日

■ 主席者

3人(金沢大学2人、金沢星稜大学1人)

■ 実施概要

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前	移動	課題解決に向けてプランニング	課題解決に向けてプランニング	課題解決に向けてプランニング	発表準備 最終発表会(課題解決案発表)
午後	オリエンテーション 企業説明・見学 企業からの課題説明	課題解決に向けてプランニング	課題解決案 中間発表 意見出し 課題解決案 練り直し	課題解決案まとめ	

小松市立稚松校下公民館は、世代を超えた交流を推進し、地域のまつりや高齢者の見守りに活用するランプシェード作り等、まちのにぎわい創出のための活動を行っている。

期間中、学生らは、同市西町の空き物件の活用プラン作成に向けて、初日の小松駅周辺のまち歩きや、3日目のランプシェード作りを、地元の方々と一緒に行った。

ランプシェード作りでは、「人と人とのつながりや輪を重視する町であること」、「空き家が増えると地域間交流もしにくくなる」など、地元の生の声を聞くことができ、空き物件の活用を考える際の大きなヒントとなった。

最終日には、空き物件の活用プランを地域住民、空き物件のオーナーに提案し、地域住民の気質や地域を取り巻く環境について、もう少し考慮するようアドバイスをいただいた。学生たちは、地元の方々が自分たちのプランを実際に活用するプランとして、真剣に耳を傾けてくださったことに感銘を受けていた。



地元の方々から小松市の特徴を聞く学生ら



プランを提案する学生



地元の方々とのランプシェード作り

■ 結果・成果

本プログラムを通して、学生たちは課題に取り組むだけでなく、今後の進路や生き方についても話をし、「家族以外の大人とこんなに真剣に話をする機会はなかった」という声もあり、学生自身の新たな可能性や生き方に気づくきっかけとなった。

今後、学生たちはプランの実装に向け、ブラッシュアップしオーナーに提案する予定。

2 《加賀エリア》企業体験型インターンシップ(小松市)

金沢大学

小松商工会議所のコーディネートにより製品の品質にこだわる熱い情熱を持った小松市内の2つの企業で実施し、本学と石川県立大学の学生計6人が参加した。学生らは業務に携わりながら、社員の方々にヒアリングを行うことで、会社の魅力やこだわりを探り課題解決に取り組んだ。

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

9月2～6日

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前	移動	課題解決に向けてプランニング	課題解決に向けてプランニング	課題解決に向けてプランニング	発表準備 2社合同最終発表会（課題解決案発表）
午後	オリエンテーション 企業説明・見学 企業からの課題説明	課題解決に向けてプランニング	課題解決案 中間発表 意見出し 課題解決案 練り直し	課題解決案まとめ	2社合同の懇親会

I モノづくりの魅力を学生にどのように伝えるか

in 株式会社板尾鉄工所

■ 出席者

2人（金沢大学）

■ 実施概要

建設機械の足回り部品の製造をメインに国内外の市場をターゲットに事業展開する株式会社板尾鉄工所では「モノづくりの魅力を学生にどのように伝えるか」を課題として設定した。

【学生の感想】

漠然とした動機で入社した社員であっても「製品をより良いものに変えていくとともに、技術を継承していきたい」という強い思いで仕事する姿勢に触れ、参加学生らは、社員の気持ちをも変える人の力を重視した人材育成に関心を抱いていた。

II 人が集まる酒蔵活用プランニング

in 東酒造株式会社

■ 出席者

4人（金沢大学3人、石川県立大学1人）

■ 実施概要

1860（万延元）年の創業以来、原料や製造方法の見直しによっておいしい酒作りを追求し続ける東酒造株式会社では「人が集まる酒蔵活用プランニング」を課題として設定した。

【学生の感想】

全社員が酒作りからラベルデザイン、ラベル貼り、配達までの全行程に携わり、製品に愛情を注いでいることに加え、社員同士の親密なつながりがあるからこそ、おいしい酒作りにつながっていることを実感した。



マイクロシヨベルの完成



酒蔵活用プランについて意見交換



一本一本手作業でラベル張り
酒への愛着が湧く瞬間

■ 結果・成果(全体)

最終日には、2社合同で最終報告会を実施。参加学生や2社の社員がお互いのプレゼンテーションに対して、「理系の世界とされている鉄工業での文系出身者の業務を具体的に示した方が良い」「20代の酒への関心は数値で示した方が分かりやすい」など、意見交換を行った。



2社合同の最終報告会の様子

本プログラムを通して、学生らはそれぞれの会社が守ってきたモノづくりの品質へのこだわりや誇りと共に、製品や現場で働く人に直に触れる大切さを実感した。

今後、学生たちはプランの実装に向け、ブラッシュアップしそれぞれの企業に提案する予定。

3 《能登エリア》地域活性化型インターンシップ 伝えたい・つなぎたい能登の職人の心意気に触れる(能登町)

金沢大学

in 能登町 8月27日～9月1日

■ 出席者

1人(金沢大学)

■ 実施概要

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
午前	移動(能登町へ)	イベントブースの業務体験	移動販売同行	イベント準備	イベント	振り返り
午後	オリエンテーション イベント説明	他事業者職場体験	イベント準備	イベント会場準備		

ふくべ鍛冶は能登地域で現存する唯一の鍛冶屋である。その4代目干場健太郎氏は、「鍛冶屋として地域を盛り上げたい」という強い思いから、能登町役場を退職し、家業である鍛冶屋を継ぐことを決意。本業である刃物の製造・修理のほか、地域の声に応え、地元鮮魚店と協力してサザエの身を簡単に取り出せる新規商品を開発したり、能登町内で建具屋や畳屋を営む専門職人らとのビジネスマッチングを積極的に行ったりするなど等能登町の地場産業を盛り上げる様々な活動を行っている。

期間中、学生はインターンシップ5日目に開催される能登町地域振興イベント「アリンゾフェス」の中で能登の生業(仕事)を体験できる「ナリワイエリア」の企画の検討に向けて、出店予定の地元の職人らに弟子入り体験。初日は、干場氏のもとでペーパーナイフ作り、2日目には建具職人のもとでの組子細工作りと、塗装職人のもとでのミニ看板づくりを行いながら、各ブースの出展イメージをつかみ、ナリワイエリア全体の企画をブラッシュアップさせていった。

また、3日目には、ふくべ鍛冶の移動販売に同行。道具の販売・修理を通して地域の人々の生活を支えるだけでなく、能登町内の民家・集会所・公民館を巡回することで、高齢者の見守りの役割も担っていることを学んだ。

アリンゾフェス当日には、学生のアイデアから生まれた「職人カード」を来場者に配布。各出展ブースを回ると自身の職人適正が分かる仕組みとなっており、能登町の産業により興味を持ってもらえるよう工夫した。

また、インターンシップ期間中、能登町で開催された祭りのヨバレにも参加。能登の祭り文化を体験し、地元の方々との交流を深めた。



移動販売で地元の方との交流



【弟子入り】ペーパーナイフ作りの体験



8月31日(日)生業ブースの総合案内



イベントの企画を検討



学生が企画し来場者との会話が弾みきっかけとなった「職人カード」

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

■ 結果・成果

参加学生は、「仕事は辛いものというイメージを持っていたが、仕事をいかに楽しむかをモットーに生き生きと仕事をする職人の姿を見て、働くことに前向きになった」と話し、地域の方々との交流を通して、地域の現状を理解するとともに、自身の将来について考える濃厚な6日間になった。

4 《能登エリア》企業体験型インターンシップ(志賀町・能登町)

金沢大学

若手経営者が「能登の持続可能性」をコンセプトに、農業・漁業・酒造業それぞれの立場から地域活性化のための様々な活動に取り組んでいる3社で実施した。学生らは3チームに分かれ、5日間寝食を共にしながら、それぞれの課題解決に取り組んだ。

9月9～13日

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前	移動	課題解決に向けてプランニング	課題解決に向けてプランニング	課題解決に向けてプランニング	発表準備 最終発表会(課題解決案発表) <3社合同>
午後	オリエンテーション 企業説明・見学 企業からの課題説明	課題解決に向けてプランニング	課題解決案 中間発表 意見交換 課題解決案 練り直し <3社合同>	課題解決案まとめ	

I 若者にとって魅力のある農業を創る

in 株式会社ゆめうらら(志賀町)

■ 出席者

3人(金沢大学2人、石川県立大学1人)

■ 実施概要

裏貴大代表取締役が導入しているドローンによる種まきなどのスマート農業や、志賀町役場職員や農業協同組合職員から聞いた就農支援策などを基に、担い手の高齢化や後継者不足をはじめとした農業法人が抱える課題を学生が解決するインターンシッププログラム案を検討した。



農業関係者にヒアリングをする学生

II 若者にとって魅力のある漁業を創る

in 有限会社日の出大敷(能登町)

■ 出席者

2人(金沢大学)

■ 実施概要

能登町の伝統漁「大敷網」に使用する定置網の補修・修繕作業の体験や、中田洋助取締役から聞いた漁師の働き方や漁業の課題を踏まえ、ホームページやSNSを通じて日の出大敷の魅力を若者に発信する方策について検討した。



定置網のメンテナンス
作業中の漁師たち

Ⅲ ブランディングのための広報戦略

in 数馬酒造株式会社(能登町)

■ 出席者

5人(金沢大学)

■ 実施概要

地域資源を最大限活用した原料調達による酒造りへのこだわりなど企業経営にあたって大切にしている指針を知るとともに、酒蔵見学を通じて業務内容への理解を深めた上で、主力商品である「竹葉」の広報戦略を考える課題に取り組み、金沢市在住の女子大学生をターゲットに「竹葉＝食事が楽しい日本酒」となるようなイメージ戦略を検討した。



数馬酒造の広報担当者から話を聞く学生



最終発表会でのプラン提案の様子

■ 結果・成果(全体)

3日目に中間発表会を3チーム合同で開催した。提案内容の絞り込みやオリジナルの魅力の引き出し方などについて意見交換が行われた。中間発表で得た助言を踏まえ、残り2日間でプランを再考案し、5日目の最終発表で各社の課題解決プランを提案した。

本インターンシップの5日間、能登地域を盛り上げたいという若手経営者らの強い信念に触れ、参加学生らは「誰かの役に立てる生き方をしたいと考えるようになった」「持続可能な能登を作りたいという夢に自分も加わりたい」と語った。

5 共創インターンシップ報告会

金沢大学

in 金沢大学旧地域連携推進センター2F 12月11日

■ 出席者

14人(金沢大学11人、石川県立大学2人、金沢星稜大学1人)

■ 実施概要

14人の参加者が3グループに分かれ、①共創インターンシップに参加して気づいたこと・働き方に対する考え方の変化 ②人間関係を含め難しいと感じたこと、その乗り越え方 ③後輩に伝えたいことの3つについてグループディスカッションを行った。

■ 結果・成果

学生からは受入先企業は自分の会社のことだけではなく地域の活性化に取り組んでいる、自分が当たり前のことで、他人には当たり前ではないことがある、といった感想があった。一方で事前学習時に参加メンバーと課題について話し合う時間をもっと増やした方がいいという意見も出た。最後にコメンテーターから学生の発表を受けて、「卒業してすぐに就職するのではなく、今のよう体験をしてから就職するといったことを企業も評価するという社会になるといい」、「当初、学生は自分のために参加したと思うが、参加したら自分のためではなく、誰かのために役に立ちたいという気持ちが出てきている。この先、自分の地元をどうするか、ということも考えなければいけないのではないか」というコメントをいただき、自分の出身地の現状について思いを巡らせていた学生たちは大きく頷いていた。



グループで意見交換をする参加学生



グループで出た感想や意見を発表する学生



学生の発表にコメントするコメンテーター

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

学生から出た感想・意見を踏まえ、受入先と今回実施した共創インターンシッププログラムの内容について意見交換をし、今後のプログラムにつなげていく予定。

6 白山ろくの暮らしと地域資源を知り、これらを強みとして地域振興を考える 石川県立大学

in 白山市役所、白山市白峰地域 9月19・20日

■出席者

8人(石川県立大学5人、金沢大学3人)

■実施概要

白山市役所ならびにNPO法人白山しらみね自然学校の協力をいただき、白山市の域学連携の取り組み、白峰地域の歴史と文化や現在の生活環境等について学び、グループワークで、現在の白峰地域の強みと弱みを考え、観光産業の強化や、地域への定住促進を目的とした提案をした。

1日目は、白山市役所において、現状や行政の取り組みなど地域振興についての説明を受け、白峰地域に移動し、交流センターで地元の方々との交流した。

2日目は、保育施設や特別養護老人ホームを訪問し、地元の人が考える課題を整理し、グループワークを行い、白峰地域の強みと弱みを考え、観光促進や定住促進策の提案した。

■結果・成果

現地において当該関係者の思いに触れ、直接、現状や生活環境を学ぶことができ、グループワークでは、それらを踏まえた観光産業の強化や、地域への定住促進を目的とした多くの提案が出された。



白山市役所



白峰地域での集合写真



グループワーク(検討)



グループワーク(発表)

7 農福連携事業への理解を深めるためのインターンシップ

石川県立大学

in 日本海倶楽部ザ・ファーム 9月19～21日

■出席者

3人(石川県立大学)

■実施概要

農福連携事業への理解を深めるために、障害者就労施設の日本海倶楽部ザ・ファームにおいて障害者さんたちと一緒に農作業などを行うとともに、同施設の要望に応えて羊毛の草木染めにも挑戦し、一緒に作業する方とのコミュニケーションの大切さ、大学の農場実習の経験を生かすなど、貴重な体験をすることができた。

1日目は、施設の概要説明、果物や野菜等、商品の箱詰め、ブドウ直場所での販売等を行った。

2日目は、ヒツジの世話、放牧地の麦踏み、大根の間引き等を行った。

3日目は、羊毛の洗浄、染色等を行った。



ヒツジの世話



大根の間引き

■ 結果・成果

障害者さんたちと、大根の間引き、ヒツジの世話、牧草地での播種後の鎮圧から果物・野菜の箱詰め作業などの農作業を行い、一緒に汗を流した。施設の方からは、普段外部とのふれあいの少ない障害者の方が学生と話ことができ、うれしそうであったとの感想をいただいた。



羊毛の洗浄



羊毛の染色

8 のと共栄信用金庫の創業支援業務の体験・理解

金沢星稜大学

in のと共栄信用金庫本店 8月26～30日

■ 目的

石川県七尾市に本店がある「のと共栄信用金庫(のとしん)」は、地方創生に結びつく創業支援に先進的に取り組んでおり、これが評価されてまち・ひと・しごと創生本部の大臣表彰を受けている。このように、創業支援や環境金融に先進的に取り組む「のとしん」の創業支援等の戦略的業務をインターンシップ生が体験し、地方創生を金融の面から支える地域金融機関の重要性の理解促進を図り、学生の地元定着、キャリアデザイン意識の向上を図ることを目的とする。

■ 出席者

5人(金沢星稜大学4人、教員1人)

■ 実施内容

特徴的なプログラムとして、1日目(26日)に、鈴木理事長との懇談があり、4日目(29日)に、七尾市・南大呑地区とのと共栄信用金庫が日本財団の「わがまち基金」からの助成を受けて取り組んでいる地方創生のための活動を調査に行き、同地区に飲食店を移転・立地しようとしている「千魚萬菜」の経営者へのインタビュー調査に基づくSWOT分析により移転先での集客戦略を立て、経営者にプレゼン(還元)した。

■ 結果・成果

経営者に対するプレゼンの主旨は、「千魚萬菜で提供される料理は極めて質が高く特別感があり、強みであるが、情報発信力が弱く、強みを活かしきれていないので、客のターゲット層である中高年の女性客にアピールするSNSとしてフェイスブックを活用した情報発信が効果的と考えられる」というものであった。しかし、経営者にアカウント作成のスキルがないということであったので、学生が千魚萬菜のアカウントを作成した。アカウント名は「千魚萬菜」である。このことは、経営者にも大変感謝され、また、「のとしん」の担当者にも大変高い評価をいただいた。その結果、「のとしん」のLINEである「のとしんLINE@」にも本インターンシップの経過及び成果を詳細に情報発信していただくことができた。

学生の方も、信用金庫が地方創生に大きな役割を果たしていることを体験・理解し、信用金庫のイメージが大きく変わり、大変に有意義であったこと、自分たちの分析・提案・スキルが経営者に感謝されたことに(緊張しながらも)感激したといった感想が大方であった。



プレゼン資料の作成



プレゼンのシナリオ確認



プレゼンの練習



経営者に対するプレゼン

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

2 KITセミナー

1 グラフィックレコーディング講座 白山麓SDGs未来都市編

金沢工業大学

in 金沢工業大学白山麓キャンパス イノベーションパブ 9月9・10日

■ 目的

議論や対話を絵や図などを用いて可視化することにより内容を直感的に理解し、全体を俯瞰することの大切さを学ぶことを目的とする。

■ 出席者

23人

■ 実施概要

議論や対話を絵や図などを用いて可視化し、記録する「グラフィックレコーディング」の手法を、白山麓におけるSDGs未来都市構想をテーマに学んだ。

全ては○・△・□で表現できるという前提から、写真を見て描く、説明文を読んで描く、自分についてのことを描くと徐々に課題のレベルを上げていった。「人の説明や考えを描く」という最後の課題で、テーマの内容や数からボリュームを考え、1枚の紙に書く範囲や配置をあらかじめ決めることにそれぞれの個性が表れていた。

『白山麓の生態系』をテーマに30分の説明を聞きながら実際に描く作業が進められたが、「たくさんの情報を入れることが大変」、「自分が詳しくない分野の話の絵を描くことが難しい」という感想が出ていた。永井講師からは、「どれだけ簡略化できるかが問題で、全ての情報を入れる必要はない」というアドバイスをいただいた。

最後の実践問題では「複数人の話を聞いて描く」というテーマで、3名の話を用紙で表現した。『白山麓地域』という共通項はあるものの、観光分野、防災分野、地域のコミュニティなど違う話を同時に書き進めることは困難でありながらも書き上げて満足している様子も見られた。

■ 結果・成果

学生はグラフィックレコーディングを通して地元地域の課題について理解を深めるとともに、自ら表現することで他の多くの人に伝える手法を身に付けることができた。



2 トークンエコノミー講演会

金沢工業大学

in 金沢工業大学 扇が丘キャンパスアントレプレナーズラボ 9月28日

■ 目的

ブロックチェーンによってもたらされるトークンエコノミーの世界を理解し、技術論ではなくトークンエコノミーという考え方を理解し、様々なユースケースを学びながら新たなビジネスの着想を得ることを目的とする。

■ 出席者

22人

■ 実施概要

『トークンエコノミービジネスの教科書』の著者である高榮郁講師に「ブロックチェーンとトークンエコノミーの未来」というタイトルで講演いただいた。今回は技術論ではなく様々なユースケースを学ぶことができ、文系の学生で興味を持てる内容であった。

トークンエコノミーとは対価を与えることで動機(モチベーション)を付与し管理者が望む経済活動を促すことを意味する。管理者が付与するものが「トークン」であり、それは独自性があり・価値が変動するという特性がある。

トークンエコノミーはキャッシュレスが前提とされているので、日本での事例は極めて少ない。海外での事例を紹介していただいたが、韓国のノウォン区で行われている地域トークンは大変興味深いもので、ボランティア活動でトークンを配布しており、緊急性の高い災害ボランティアの場合は配布トークンが増えるなど価値の変動もある。これにより、若者がボランティアに参加する機会が増え、参加することで地域の課題を知ったり、興味を持つことに大きな効果があるとのことだった。そのトークンは加盟店で使用できるので、地域の活性にもつながる。

動機と対価を変えることで様々な場面でトークンエコノミーを活用することができるので、豊かで物欲が少ない日本では、精神的な豊かさを得ることもできる。

■ 結果・成果

講演会後の質疑応答や交流会では「10年後はどのような社会になるのか」、「アプリ開発に興味があるがどのようなものが良いか」といった質問が多く出て、講師から1人1人に明確で現実的なアドバイスをいただき有意義な時間となった。学生は、トークンエコノミービジネスにつなげるために地域や日本全体の課題に着目し、新たなビジネスの着想を得ることができた。

地(知)の拠点
ブロックチェーン最強のビジネスモデル
トークンエコノミーの世界

『トークンエコノミービジネスの教科書』の著者である高 榮郁氏をお招きし、ブロックチェーンによってもたらされるトークンエコノミーの世界をわかりやすく解説する講演会です。持論だけでなくトークンエコノミーという考え方を理解し、様々なユースケースを学びながら新たなビジネスの着想を得られる貴重な機会です。15分以内の持ち時間もご参加ください。

日時：令和元年9月28日(土) 14:00~17:00
 第1部 講演会 14:00~15:30
 第2部 学生との交流会 15:30~17:00

会場：金沢工業大学 12号館アントレプレナーズラボ
https://www.kanazawa-it.ac.jp/about_idt/ogigaoka.html

定員：40名(定員にない方は観覧席から見ていただきます)
 申込：isp@kanazawa-it.ac.jp
 件名：トークンエコノミー講演会申込
 本文：①氏名 ②学校名 ③学部・学科 ④学年
 ⑤メールアドレス
 申込締切：令和元年9月27日(金)

トークンエコノミー
ビジネスの教科書

講師：高 榮郁氏
 ロケットスタッフ株式会社
 代表取締役

ソフトバンク創設者、NOVADA JAPANを退社、2019年、ロケットスタッフを創業。スタートアップ向けにデジタルマーケティング、内部コミュニケーションの導入・導入支援を推進。内部コミュニケーションの導入・導入支援を推進。2019年、ロケットスタッフを創業。スタートアップ向けにデジタルマーケティング、内部コミュニケーションの導入・導入支援を推進。2019年、ロケットスタッフを創業。スタートアップ向けにデジタルマーケティング、内部コミュニケーションの導入・導入支援を推進。



3 みんなで創るスーパーレクチャー

1 ライフイベント「5年後10年後のライフ論」

金沢大学

in 金沢大学総合教育棟 B8講義室 12月20日

■ 目的

これから就職し社会に出る学生が充実した人生・キャリアを形成するために、学生の今から、ライフイベント(結婚・出産・育児など)を意識し、準備することの大切さについて考えてもらうことを目的に、石川県少子化対策監室と共催で実施した。

■ 出席者

42人(金沢大学31人、教職員11人)

■ 実施概要

【講師】石川県健康福祉部少子化対策監室 川端友佳子

前半は石川県健康福祉部少子化対策監室の川端友佳子氏より、石川県の少子化の動向や子育て環境をはじめ、日本



講義風景



質問をする学生

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

の高齢出産、不妊治療など妊娠・出産を取り巻く現状について講義いただき、後半は講義をもとに参加者同士、自分の将来について意見交換を行った。

学生らは参加者それぞれのライフプランについての考え方を理解し、自分の考え方と照らし合わせながら、思い思いに自分の言葉で意見交換をしていた。

■ 結果・成果

講義終了後の感想では、結婚・出産がライフプランに普通に組み込まれていることが不思議に思えた、男女共に働きながら家庭を作っていくために、今、必要なアプローチが何かを考える機会になった等、今後のライフプランを考えるきっかけになったというものが多くみられた。



意見交換する学生ら

2 2040年の仕事論+ ~つまらない人生過ごすなよ~

金沢大学

in 金沢大学自然科学本館大講義棟レクチャーホール 1月24日

■ 目的

これから就職し社会に出る学生が人生について考え、自分が生きていく“軸”を見つけるきっかけとなることを目的に株式会社プロジェクトタネと共同で開催した。

■ 出席者

94人(金沢大学63人、金沢工業大学1人、北陸大学3人、一般6人、講師2人、協賛企業9人、関係者10人)

■ 実施概要

株式会社インプレスの安田英久氏、株式会社サイバーエージェント木村賢氏を講師に迎え、株式会社プロジェクトタネ高平聡氏のファシリテートにより、前半は事前に両氏に寄せられた質問に答え、後半は会場からの質問に答えるアクティブな方式で進めた。

一つの質問に対して、「この質問の意図は、自分から見た場合かな、それとも他人から見た場合かな」と様々な角度から回答し、別の質問には、「仕事をしていると読書をしていない人はすぐに分かる。そういう人は、社会では役にたたないよ」とはっきりと回答する場面もあった。

一番質問の多かった「つまらない人生とは？」という問いに対しては「とにかく行動することが大切。何もしないで考えているだけではだめだ。とにかく動いてから考えるくらいの勢いでいい」という力強い回答があった。

最後に安田氏から学生に「自分の親や将来の子どもに、隠さず胸を張って話せる仕事をしていれば、人生は大丈夫」というメッセージが送られた。

■ 結果・成果

参加した学生からは「愉快的な大人が真剣に嘘偽りのない発言をしてくれて、自分の気持ちに突き刺さる内容だった」など様々な感想があった。

講演終了後、30名近い学生と2人の講師や参加した社会人との交流会が行われ、働くことの質問だけではなく、読んでおくとい書籍や、身に付けておくといいスキル等について質問をしていた。



会場からの質問に笑いを交えて応える講師陣



交流会で学生の話に耳を傾ける安田氏



交流会で学生からの質問に応える木村氏

4 地域交流プログラム

地域交流プログラム

金沢大学

I 五箇山インターンシップ

in 富山県南砺市相倉 5月19日、9月21日

■ 出席者

46人(金沢大学)

■ 実施概要

学生は世界文化遺産である五箇山相倉合掌造り集落内で現地スタッフや地域の方のアドバイスを受けながら昔ながらの手作業で田植え、稲刈り・ハサ掛けを体験した。作業終了後は地域の方が準備してくれた豚汁やパンを食べながら交流を楽しんだ。

・5月19日 みんなで農作業の日「田植え」

・9月21日 みんなで農作業の日「稲刈り・ハサ掛け体験」

II 能登のウエストコースト・志賀町ささなみ究極体験プロジェクト

in 志賀町笹波 8月24～26日

■ 出席者

18人(金沢大学)

III 鉦打杵旗祭り(地域活性化と祭り)体験

in 七尾市中島町鉦打地区 9月22～23日

■ 出席者

18人(金沢大学)

■ 実施概要(全体)

学生らは神輿やキリコの担ぎ手としての祭礼への参加、農業体験・民泊体験をととして、地域住民との交流を深めながら、能登の地域資源の有効活用や将来に向けての課題への理解を深めた。

■ 結果・成果(全体)

この祭りに参加した学生からは集落の方々の結束力の強さが素晴らしいといったものや、違う価値観を認め合い共有しあう関係性を経験できたことは貴重だったという感想があった。過疎化と真剣に向かい合う地域の方々から、学生はこの体験を通して新しいことにチャレンジしながら課題解決に取り組む真摯な姿勢を学んだ。

2.共創インターンシップ

【4】令和元年度

5 その他連携詳細

分類	事業名	主管	実施時期	参加人数
いしかわインターンシップ・交流会	いしかわインターンシップフェス	石川県、いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)	5月11日	1,118
	起業家交流会		6月2日	17
	働くってどういうこと？ぶっちゃけトーク！		6月22日	17
	ジモトのシゴト研究会		8月8日	43
	青空ランチミーティング		9月1日	34
	シュー活準備女子会		10月28日	21
	ランチ交流会		11月9日	24
	ベンチャー企業・若手経営者交流会		11月16日	7
	冬のインターンシップフェス		12月28日	940
	就職支援セミナー(面接編1)		1月11日	13
	就活直前ぶっちゃけトーク！		1月13日	20
	就職支援セミナー(面接編2)		1月18日	15
奥能登チャレンジインターンシップ	【珠州市】 珠洲おしごとライター 珠洲ではたらく魅力を20代に届けよう！	能登キャンパス構想推進協議会	7～2月	3
	【輪島市】 ふるさと納税新たな返礼品の企画提案 ～輪島塗～		7～9月	3
	【穴水町】 子育て世代応援 映画イベント企画 ～Pick up MAMA voice♡～		7～12月	3
	【能登町】 能登町の未来をデザイン～中学校の授業で実施～		8～2月	4
	【能登SDGsラボ】 里山里海の資源を活かしたSDGsの推進		7～12月	3
	【能登町定住促進協議会】失敗事例から学ぶ能登の商店再生プロジェクト		8～12月	3
能登の祭りの環インターンシップ			8～10月	110
金沢市との連携	Meets！KANAZAWA	金沢市	8月9日	16
	金沢芸妓 夏の稽古風景特別体験		8月10日	23
	Meets！KANAZAWA		8月27～30日	28
	百万石まつり情報発信隊		4～6月	14
珠州市との連携	実践型インターンシップ	珠州市	8月～9月、3月	2
Reach KANAZAWA		Reach KANAZAWA	通年	25

いしかわインターンシップフェス

石川県及びいしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)といしかわ学生定着推進協議会が、県内企業への学生インターンシップ(就業体験)を推進することを目的に開催しており、北陸最大級の規模で実施した。

平成29年度は、県内外から1,600名以上の学生と、200社以上の企業・団体が参加し、過去最高の盛り上がりとなった。

毎回、学生が運営スタッフとしても参加しており、大学・自治体・企業と学生が協働で創り上げている。



「いしかわ」ポーズで石川県知事・県内8大学長と参加学生がバチリ！

平成27～令和元年度 インターンシップフェス参加学生数

	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1
学生数	623	1,048	1,686	1,587	1,118
マッチング希望学生数	490	744	821	1,147	911
マッチング学生数	374	596	595	815	848

平成27～令和元年度 インターンシップフェス参加企業数

	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1
合 計	93	133	225	227	230

参加学生数は平成29年度が最高となっているが、実際に企業でのインターンシップに参加した学生は年々増えており、令和元年では過去最高となっている。これは、参加企業が令和元年では平成27年度の約2.5倍となり学生の選択肢が増えたことに加え、“インターンシップフェス”自体が学生に浸透したことを表している。

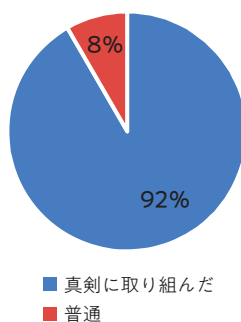
結果として、インターンシップフェスは学生が地元企業を認知する大きな役割を果たしたと思われる。



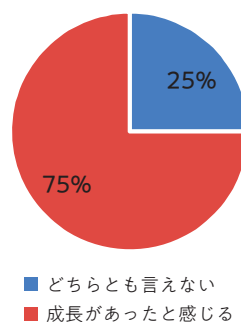
まとめ

【受入先アンケート結果】10社

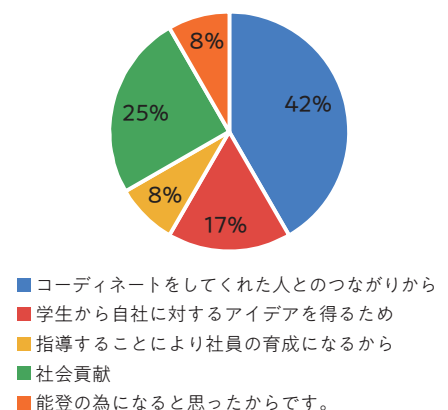
参加した学生の実習態度について



学生自身に成長があったと思われますか



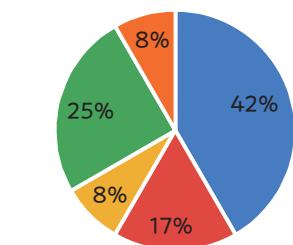
受け入れをされた一番の理由は何ですか



2.共創インターンシップ

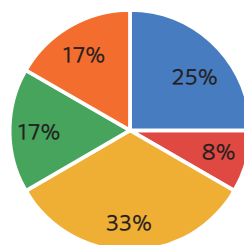
【4】令和元年度

受け入れた一番のメリットは何ですか



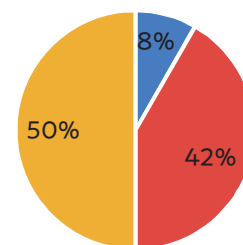
- 学生との出会い
- 指導する社員の成長
- 自分の頭が柔らかくなったこと
- 社会貢献
- 新たな企画開発

受け入れて一番のデメリットは何ですか



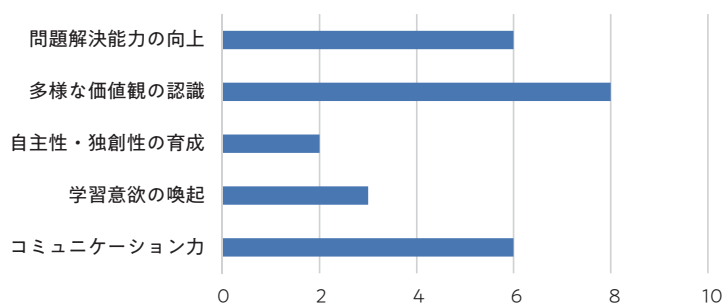
- 安全への配慮に手間がかかる
- 何もない
- 指導に時間・コストがかかる
- 事前の準備に時間・コストがかかる
- 情報漏えいが不安である

プログラム全体についてどの程度満足されていますか



- かなり不満
- かなり満足
- やや満足

学生に成長があったと感じるのはどのような点でしょうか
(複数回答可)



【学生の声】共創インターンシップ参加学生35名

●発見

- ・言葉だけで知っていた“やりがい”を自分が実際に感じ取る場となった。
- ・課題解決のプランニングで寝不足だったけど、とても楽しかった。やりがいのある仕事は結構楽しめそうだと感じた。
- ・自分が熱意を持って働くことができる職場、それはすごく自分にとって大切なことだと感じた。
- ・今まで業界や会社の規模ばかり見ていたが、社内の雰囲気や、社長と社員で話し合える環境、会社と地域のつながり、どのように貢献できているかという部分に目を向けられるようになった。
- ・新しい発想を聞いて視野が広がった部分と、こんな考え方があるのとかと戸惑った部分があった。
- ・持続可能な地域をつくりたいという夢に自分も加わりたいという思いが出てきた。

●課題・改善点

- ・1日の事前学習だけでは、受け入れ先の課題が漠然とし、何をどこまで調べる必要があるのかわからず、現場で実際に何を考えたらいいいのか戸惑ってしまった。
- ・参加メンバーのバックグラウンドが違い、企業と学生の知識量も違う。その違いの認識がずれているので、それを埋めるためにコミュニケーションが必要だった。
- ・地域に根ざした企業でのインターンシップというコンセプトでありながら、受け入れ先企業と宿泊施設の往復で、地域の方々との交流が無かったのが残念だった。
- ・Wi-Fiの環境が欲しい。
- ・食事が偏ってしまった。

●後輩への一言

- ・全く違うことを勉強している人の意見や外の人の意見は視野が広がり、取り入れるのが凄く大切だと感じたので、興味があるなと思ったら専門外でも挑戦したらいい。
- ・能登を盛り上げたいという気持ちが凄く強い人が多い。そういう大きな夢を持って仕事をしている人がたくさんいることが知れたことが大きかった。
- ・インターンシップ先で疑問に思ったことはその場で質問をすること。その場で解決しないとインターンシップの目標がぼんやりしたままとなり、時間がもったいない。疑問が晴れると作業がはかどる。
- ・このプログラムは自分にできるか？ではなく、やってから後悔しようぐらいの勢いがあっていい。

【まとめ】

受け入れ先に行ったアンケート結果から、学生が成長したと感じた一番の印象は「多様な価値観を認識した」ということだった。それを裏付けるかのように学生からも内的キャリアの重要性に気づく感想が多くあった。

プログラムは受け入れ先と運営側で組んだものだった。これに対し、受け入れ先、学生双方からの意見として共創インターンシップに入る前に、プログラムの目的を達成するために受け入れ先と学生が実施内容を共に考え創り上げることが、双方に本気度が上がるとの意見があった。アンケート項目にはないが、受け入れ先からは共創インターンシップ終了後も学生との交流を続ける仕組みが欲しいという声を多数いただいた。

学生たちは自分の経験を増やすことを目的に本プログラムに参加したが、地域の課題と向き合ううちに、「誰かの役に立ちたい」という気持ちが強くなり、さらに自分が暮らす地域についても考えるきっかけになった。

このプログラムは受け入れ先アンケートの回答にあるように「指導に時間・コストがかかる」、「企業の情報漏れの心配」など、負担が多い。それでも次年度も受け入れるという回答が多いのは「社会全体で若者を育てたい」という寛大な気持ちからくるものである。運営側はこの気持ちに甘えることなく、受け入れ先、学生共にプラスとなるプログラムを創り上げていきたい。

3. いしかわ未来アカデミー

学生が起業へ踏み出すためのスキルを身につける起業塾です。

約6カ月間、全22回にわたるプログラムで実施し、学生はマーケティングやプロモーション戦略などの「学習」と、3回の起業体験を通じた「実践」に挑みます。また、プログラムを通じて「いしかわ」の課題解決にもチャレンジします。

3回の起業体験 × 経営スキル習得

未来を創る「起業マインド」を学び、 学生時代から成長角度を引き上げる。

What's the VALUE?

学生起業の価値とは？

今、大企業や投資家の間では、学生起業家の争奪戦が繰り広げられています。

その理由は、**起業経験が圧倒的な成長を生み出す**からです。

安く仕入れて、高く売る。商売の原点は非常にシンプルですが、継続は難しく、

その**困難を乗り越え続けるためには「考え抜く力」が不可欠**です。

ここに価値があります。

この力の差は、開きはじめると、やがて追いつけなくなります。

この現実を直視して、学生生活を送っている人は意外と少ないのではないのでしょうか。

学生のみなさん、今こそ、起業のチャンスです。

実際、今活躍している起業家の3人に1人は、大学在学中に起業を経験しています。



いしかわ未来アカデミーの特徴 オールいしかわで、本気の学生を強力サポート！

受講料無料

いしかわ学生定着推進協議会の全面サポートにより、学生のみなさんの受講料負担はありません。

リアルな起業体験

机上の理論だけでなく、実際に起業を体験する中で「起業マインド」を学びます。

広がる人脈

プログラムを通して「夢」と「志」の高い受講生の仲間や、実際の起業家・経営者と築く人的ネットワークができます。

大学と自治体が
協働実施

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」の一環として、オールいしかわで事業を実施します。

いしかわ
ベンチャーモデル

いしかわに根ざした起業体験を通し、地域資源を活用した新しい起業モデルを構築します。

いしかわ未来アカデミー カリキュラム

実践を通じて起業マインドを体得する6カ月！自身の事業計画書を作成、ブラッシュアップし、“一步を踏み出せる”状態へ

週1回、全22回実施		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
経営スキル学習・起業体験	第1クール 事業計画書 アイデアの出し方等 事業実施スキル	・オリエンテーション ・事業計画書	・アイデアの出し方 ・STP(顧客深堀り)	・PEST / 5F / SWOT / 3C ・KSF / KPI	・バリューチェーン ・プロジェクト管理	・第1クール 企画最終プレゼン	POINT 実践1 Eコマース
	第2クール 戦略論 マーケティング ブライシング等 利益拡大スキル	・実施振り返り ・問題解決思考	・戦略の定石 ・リサーチ	・マーケティング ・プロモーション戦略	・ブライシング戦略 ・コストマネジメント	・第2クール 企画最終プレゼン	POINT 実践2 対面販売
	第3クール 経営者の役割 リーダーシップ 営業等 人を動かすスキル	・実施振り返り ・経営者の役割	・事業計画振り返り ・リーダーシップ	・事業計画振り返り ・営業スキル	・事業計画振り返り ・プレゼンテーション	・第3クール 企画最終プレゼン	POINT 実践3 いしかわの 課題解決
	作成・取り組む 卒業後に 事業プランの	第4クール 自身の棚卸し 事業計画の磨き込み	・実施振り返り ・自身の棚卸し	・事業計画振り返り ・会社の作り方	・プレプレゼン ・PL/BS	・最終プレゼン	卒業

※事業プランの作成は起業を強制するものではありません。



「学習×起業体験」に3回取り組み、**実践を通して経営スキルを体得**

実践1 Eコマース

第1クールで学んだ経営スキルを使い、考え抜いたビジネスアイデアについて、インターネットを活用して実際に事業を立ち上げます（プログラミングスキルなどは一切不要です）。

実践2 対面販売

2つ目の起業体験は、対面販売形式の事業。相手は、法人でも個人でもOKです。お客さまのリアルな反応が見える分、喜んでいただける商品・サービスを企画できたときの達成感は格別です。

実践3 いしかわの課題解決

いしかわが抱える課題を抽出し、解決策を企画・実施します。あらかじめ決まった手法ではなく、今の課題に最適な解決手法を新たに導き出し、実践します。東京では体験できない、このアカデミーだけの特別プログラムです。

Archive & Message

Archive コンテストにも参加

JAIST（北陸先端科学技術大学院大学）主催の学生ビジネスアイデア&プランコンペティション「M-BIP」において、いしかわ未来アカデミー受講生の2チームが優秀賞を受賞しました！

ISICO（石川県産業創出支援機構）主催の「スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ」への応募も支援しています。

Message 修了生からのメッセージ



アカデミーを通じて、自分のちっぽけさを痛感しました。それと同時に自分の可能性にも気づく事が出来ました。**学生時代の半年間をこのアカデミーに捧げて、本当に良かったと思います。**（第1期生 Y.K 金沢大学3年）



「自分に言い訳をしない」、「愚直に」、忘れられない言葉である。事業が上手く進まない時にそれらの言葉は私を強くしてくれた。また、**起業だけでなく、これからの人生において大切なことを学ぶことができた。**成長することは一人一人異なるかもしれないが、いしかわ未来アカデミーへの参加はあなたの求める以上のものを得られるに違いない。（第1期生 M.K 金沢工業大学1年）

3.いしかわ未来アカデミー

アントレプレナーシップ教育

●「いしかわ未来アカデミー」

アントレプレナーシップ教育のコアである「いしかわ未来アカデミー」は、理論と実践が融合したユニークな教育プログラムです。理論の修得だけでなく、起業体験を重視して、実際に行動できる人材を養成しました。

カリキュラムは、「座学での学習」と「3回の起業体験」により構成され、最終的には自分の事業計画の作成・磨きこみの精度を上げ、具体的な行動に一步踏み出せるように設計しました。

座学での学習においても、グループワーク形式により実践的に能動的に学びます。起業体験前には、プレゼンを通して議論を深め、ブラッシュアップします。そうした事業を地域で実際に体験しました。

起業体験では、主に地域の課題解決に資するビジネスを構築していきます。

これまでの受講学生が実施した事業の事例としては、焼き芋販売、うさぎプレート販売、就活生向けフリーペーパー作成、牛首絨(うしくびつむぎ)という石川県の伝統工芸品の販売支援、家庭教師マッチング事業などがありました。

受講者数は、毎年30名前後で、平成30年度に初の起業家が誕生しました。

いしかわ未来アカデミー 受講者データ 単位:人

	第1期 平成28年	第2期 平成29年	第3期 平成30年	第4期 令和元年
入講者	36	38	35	26
修了者	23	13	11	11



●アントレプレナーシップ I「2040年の仕事論」

起業に興味・関心を持つ学生数の増加に向け、様々な分野で活躍するプロフェッショナルやリーダーによるオムニバス形式の授業として開講しました。



●イノバエモーション

いしかわ未来アカデミーの修了生を中心とした、事業プレゼンの場。イノバエモーションとは、既成概念にとらわれない若者の感性と情熱によりイノベーション発出の場を構築することにより、地域経済の好循環を実現し、希望のある未来・持続可能な地域社会を創造するムーブメントを表す新しい造語です。全国の有識者や地域の金融機関、VC（ベンチャーキャピタル）などを招き、地域資源を活用したビジネスのピッチコンテストを実施していました。

コンテストでは、学生自身のビジネスプランをプレゼンし、講評を受けました。



【開催実績】

第1回 2017.3.21



第2回 2018.2.24



第3回 2019.3.8



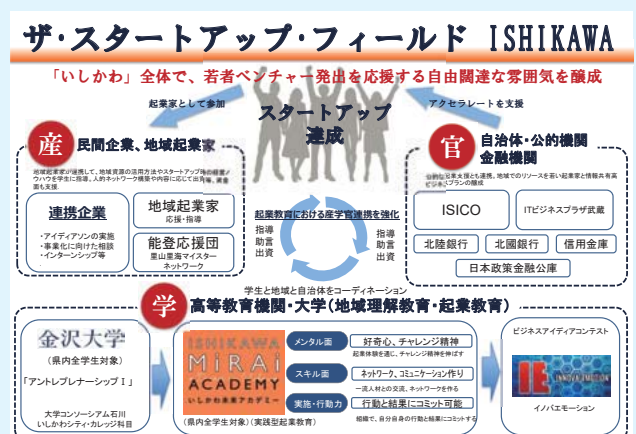
イノバエモーション後には、アントレプレナーシップやイノベーションの発出など、未来に向けた価値創造のセレンディピティを徹底的に迫及するセッション「フューチャーセッション」を開催しました。

フューチャーセッションでは、学生が主体となって、参加者が新しい発見、展開が期待できるように様々な企画を実施しました。



起業教育をベースに、「ザ・スタートアップフィールドいしかわ」と称して、若者の起業支援に向けた産学官のネットワークを広げています。

平成29年度からは、石川県産業創出支援機構（ISICO）を中心に、大学・自治体・起業支援機関が連携して、起業家・学生・企業・支援機関等が気軽に集える場「いしかわスタートアップステーション」を定期的に開催し、創業機運のさらなる醸成を図りました。



4. いしかわ創生戦略研究所の取り組み

〈目的〉

今後の地方創生には、グローバル化への対応が不可避であり、それに対応できる人材、さらには牽引する人材を育成する基盤を、本事業を通じて育成する。一方、既存の産業をグローバル化に対応させて活性化し、地域の課題（ニーズ）を地域で解決できる基盤を備えることが地域を持続的に維持していく上で重要となる。

そこで、本事業では、近隣自治体の地方創生戦略立案の支援や、石川県内の産業界の生産性向上やイノベーション創出支援、さらには、社会人教育(学び直し)を実施することを目的に「いしかわ創生戦略研究所」を設立した。

〈体制〉

金沢工業大学では、上記の目的を担い、多様かつ複雑な地域の問題に関して学術の面から解決を図る地方創生の学術拠点として独自に「地域共創イノベーション研究所」を設け、以下の3項目をミッションとしている。

- ① 本学の有する技術や研究のシーズを提供するための窓口となり、必要に応じて共同研究や受託研究を実施する情報技術の支援
- ② 地方公共団体の職員等を受け入れて、専門知識とスキルを習得するための教育機関として、本学の有する教育資源を提供する窓口となり、また人的交流のイベントなどを開催
- ③ 本研究所に所属する研究員を核とする研究・教育に関する全般的な支援を行うとともに、産学官が交流し連携するための拠点として種々活動を実施するコンサルティング支援

〈取組変遷〉

平成27年11月 1日	COCプラス事業選定
平成28年 2月 1日	金沢工業大学 地域共創イノベーション研究所 設立
平成28年 2月14日	野々市市職員対象SPSS講習会 開催
平成28年 2月23日	地域共創フォーラム～自治体と大学のビッグデータ活用～ 開催
平成28年 3月 5日	金沢市連携「インターナショナルオープンデイ カナザワ」 開催
平成28年 3月25日	金沢マラソン2015アンケート調査研究結果報告会
平成28年 7月 4日	第1回自治体データ活用勉強会 開催
平成28年 9月17日	KITハッカソン2016夏 in白山麓 開催
平成28年10月 3日	第2回自治体データ活用勉強会 開催
平成28年10月 6日	地域経済分析システム(RESAS)活用勉強会 開催
平成29年 3月 5日	金沢マラソン2016アンケート調査研究結果報告会
平成29年 3月16日	第3回自治体データ活用勉強会 開催
平成29年 3月18日	KITハッカソン 2017春 開催(～3月20日まで)
平成29年 5月24日	金沢市職員対象データ活用勉強会(研究所員の講師派遣)開催
平成29年 6月29日	野々市市委託事業「野々市市統計データ活用のための研究業務」(～3月31日まで)実施
平成29年 6月29日	野々市市委託事業「野々市市調査研究機能強化のための研究業務」(～3月31日まで)実施
平成29年 9月15日	KITハッカソン2017夏 開催(～9月17日まで)
平成29年 9月28日	次世代リーダー塾(IoT・AI・BD初級編)(全5回) 開催
平成30年 2月22日	自治体オープンデータ活用勉強会2017 開催(～2月23日まで)
平成30年 3月15日	KITハッカソン2018春 開催(～3月17日まで)
平成30年 3月27日	金沢マラソン2017 アンケート 調査研究結果報告会
平成30年 9月12日	SDGs未来都市ハッカソン 開催(～9月15日まで)
平成30年11月28日	ブロックチェーン講演会 開催
平成31年 1月23日	金沢市共催 ブロックチェーンフォーラム 開催
平成31年 3月21日	ブロックチェーンハッカソン 開催(～3月23日まで)
平成31年 3月27日	金沢マラソン2018アンケート調査研究結果報告会
令和元年 9月29日	白山市立白嶺小学校IoT×AI取組発表会 開催(全5回)
令和元年10月26日	白山市立白嶺小中学校IoT勉強会 開催
令和元年12月13日	マイクロソフト・北國銀行共催AI等クラウド最新サービスに関する講座 開催(～12月14日まで)
令和2年 1月 8日	金沢マラソン2019アンケート調査研究結果報告会

〈成果等〉

データ活用を中心とした自治体や地元企業との連携を継続的に実施してきたことにより、学生・地元社会人が共に参加し、イノベーションのアイデア創出とプロトタイプ製作に取り組むハッカソンを平成28年に実施。以降、継続的に推進している。これにより、データ活用や新技術に対する地域の関心が高まり、令和元年には地元地方銀行と大手ITベンダーとの連携による地方創生をテーマとしたハッカソンの共同開催依頼が産業界からあるなど、データ及び新技術の活用といわゆるアジャイル開発への理解・浸透が徐々に展開されて、社会人と学生による共創共有が推進されていると実感している。

また、これらの取り組みの実績から、石川県から地元の中小企業を対象としたデータ・AIの利活用を実践的に促進するAI実践道場事業を平成30年、令和元年と受託し、各企業のデータ活用リテラシー向上を図ると共に、具体的なデータ活用事例を創出している。これまでに約150名の企業の方々の参画があった。

さらに、上記の取り組みを通じて、学生による自治体や地元企業が抱える課題をデータ活用並びにAI・IoT等の新技術を用いて課題解決する「AIデザインプロジェクト」を発足。情報技術を専攻する学生だけではなく、他の学部学科の学生も参加が可能な課外プロジェクトとして展開している。これまで、製造業1社、観光サービス業1社、自治体1団体それぞれに対してテキストマイニングを活用したデータ分析や、AIモデルの構築を含めた業務改善のソリューションを提案し、エントリー企業から高く評価していただいている。

このように、COCプラス事業における、データ活用促進を「いしかわ創生戦略研究所」を踏まえて、金沢工業大学の地域共創イノベーション研究所やAI等の新技術の利活用に対する環境整備を推進したことにより、地域の社会人や学生の共創による学びの場の構築と、いわゆる情報技術を専門とする人材以外の人材に対するデータ活用リテラシーの向上に寄与する取り組みが推進できたと考えている。



分析を担当した中野教授から野々市市における人口分析のフィードバックや地域経済分析システムRESAS等の活用を踏まえ、市民・学生ら約40名が参加するなかで、グループごとに自分たちの手で創る2040年の野々市市のあるべき姿を具体化するアイデア創出ワークショップ行った。

■都市データの見える化とオープンデータ活用事例の共有

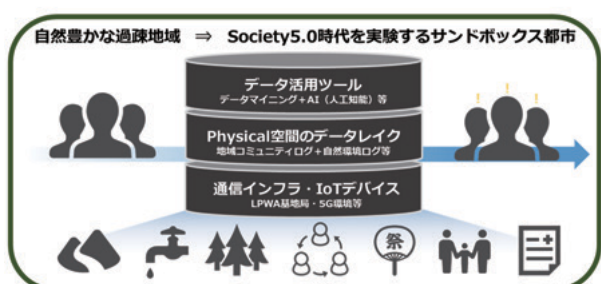


地域共創イノベーション研究所主催で、地域共創フォーラム～自治体と大学のビッグデータ活用～を開催。一般社団法人オープン・コーポレイツ・ジャパン 東富彦氏をお招きし海外のオープンデータ活用事例を中心に情報を共有。会場には、野々市市職員や近隣の自治体職員、金沢工業大学教職員・学生約50名が参加した。

■学内ビッグデータを用いてビジネスに対するデータ活用知見（ノウハウ）を蓄積



■経済・環境・社会が調和された持続可能な社会を実現するためのデータレイク構築 経済と相関の高い地域コミュニティの活動や自然環境の状況をデジタル化



自然環境のリアルタイム状況や地域コミュニティのログ等を通信及びIoTデバイスや市民参画によってフィジカル空間のデータとして蓄積する。これらのデータを踏まえ持続可能な社会の「あるべき姿」の一つのシーンをデータ活用ツール等を用いて実証実験するサンドボックス都市を構築する。市民は積極的にデータ生成や保有するリソースを提供し、研修として訪れる企業の実証実験活動に参加協力する。

メディアアーカイブ

[illegible]

進学も石川、就職も石川

[illegible]

どうする？どうなる？就活・就職

[illegible]

いしかわのススメ


いしかわ大学

いしかわ大学
いしかわ大学学生生活部

{ いしかわには、 がある。 }

「この土地で働くこと」「この土地で暮らすこと」は愛媛県に特徴のあることです。「この土地」が「魅力のある地」であれば、働き暮らすことに喜びを感じられ、良き人々を惹きつけるものとできます。そして、めだたれたら暮らしやすければいいですね。そこで、土地の魅力について紹介します。



1
働き暮らす環境

愛媛県は、自然環境が豊かで、気候が温暖なところとして知られています。温暖な気候、美しい自然環境、豊富な食料資源、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。



2
暮らしやすさ

愛媛県には、自然環境が豊かで、気候が温暖なところとして知られています。温暖な気候、美しい自然環境、豊富な食料資源、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。



3
暮らしやすさ

愛媛県には、自然環境が豊かで、気候が温暖なところとして知られています。温暖な気候、美しい自然環境、豊富な食料資源、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。



4
暮らしやすさ

愛媛県には、自然環境が豊かで、気候が温暖なところとして知られています。温暖な気候、美しい自然環境、豊富な食料資源、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。



5
暮らしやすさ

愛媛県には、自然環境が豊かで、気候が温暖なところとして知られています。温暖な気候、美しい自然環境、豊富な食料資源、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。



6
暮らしやすさ

愛媛県には、自然環境が豊かで、気候が温暖なところとして知られています。温暖な気候、美しい自然環境、豊富な食料資源、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。また、交通の便が良く、生活環境が整ったところとして知られています。

景色、そして暮らす人の声。まだ知らないいしかわにふれるサトはコナラ

a Dream in Ishikawa
 いしかわには、夢がある。

いしかわ市、愛媛県立いしかわ高等学校、いしかわ大学に在籍する学生と教職員のボランティアグループ「SHIKAWA DREAMERS」による夢を語るイベントです。

申し込み先：いしかわ大学学生生活部 学生生活課 学生生活係
 〒791-8580 愛媛県新居浜市大田町1-1-1
 TEL 079-822-1111 FAX 079-822-1112
 E-MAIL shikawa-dreamers@shikawa-u.ac.jp



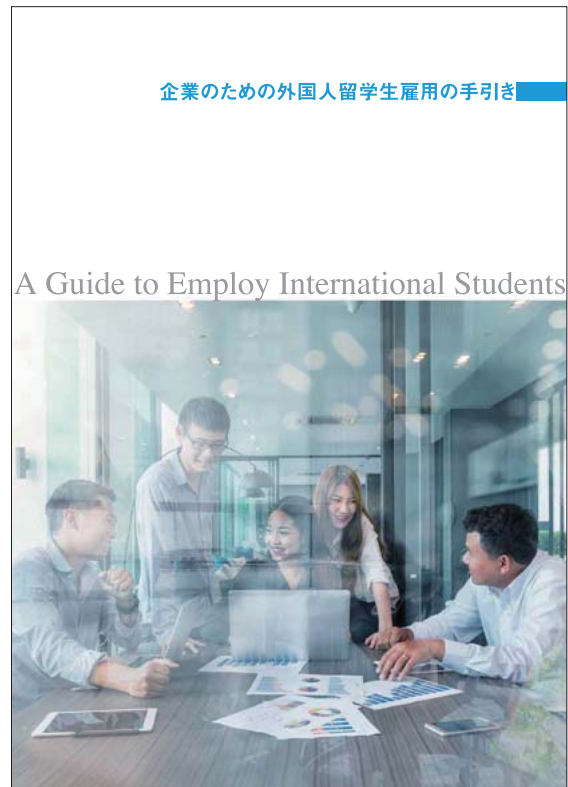
いしかわには〇〇がある vol.1

[illegible]

いしかわには〇〇がある vol.2



ジブンで探す「志」&「マイ・ワーク・スタイル」発見ノート
emotion



企業のための外国人留学生雇用の手引き



id -ISHIKAWA DRAWER-
2018 Spring



id -ISHIKAWA DRAWER-
2019 Spring



石川県内の8つの大学と全自治体で「石川県における学生定着の取組の推進に関する協定書」を締結し、COC+事業を本格的にスタートさせたのは平成28(2016)年1月でした。背景には一つの危機感がありました。それは北陸新幹線が平成27年3月に東京-金沢間が開業し、観光客でにぎわうようになったものの、副作用として「ストロー現象」が叫ばれるようになっていたことでした。地域の未来を担う若者たちが金沢を離れ、東京一極集中が加速するのではないかと。金沢大学がCOC+事業「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」を文部科学省に申請したときのヒアリングでもこれに関連する質問がありました。

そこで8つの大学の平成26年度の域内就職率34.2%を10ポイント増やすことを目標に掲げ、学生たちが域内企業や地域理解を深める「共創インターンシップ」に取り組みました。平成27年度の域内就職率は2.8ポイント減少したものの、それ以降ポイントは増加基調で推移しています。ただ目標の「44.2%」には及びません。逆にCOC+事業に取り組まなかったら、ストロー現象に見舞われていたのではないかと考えると実にタイムリーだったと思います。

これからの事業継続について述べます。事業の3本柱である地域思考型教育の第1ステップはICT教材の地域創生概論「いしかわで学ぶ未来可能性」です。原則として1年次に視聴してもらい、「地域での学び」をスタートさせます。8大学で5500人以上の新入生の必修教材とさせていただきました。石川の総論、自然・文化・歴史編、産業編、活躍する人材編の4コマ分(1編90分)です。COC+事業の終了後もこの教材は引き続き活用できます。

第2ステップは主に2年次と3年次の学生がチャレンジする「共創インターンシップ」です。企業インターンシップと地域インターンシップの2つのプログラムの構成です。企業インターンシップは、石川県商工労働部と連携して、「いしかわインターンシップ・フェス」で成果を上げることができました。学生1100名が参加企業・団体230社をめぐり、850名の学生が実際にインターンシップで企業訪れています(令和元年度実績)。地域インターンシップは、地域理解をテーマに能登と加賀の企業や行政と協働でインターンシップのプログラムを開発しました。COC+事業の終了後も「大学コンソーシアム石川」が企業や行政とタイアップし、キャリア教育的な要素を盛り込んだ「エクスターンシップ」として事業を継続していきます。

第3ステップである起業モデルの構築では、学生のための起業塾「いしかわ未来アカデミー」を開講しています。理論だけでなく、起業体験を重視して、実際に行動できる人材を養成しています。これまで学生58名が修了しています。修了生たちが自ら企画して、銀行・投資家や多様な人材と交流する場を設けるなどチャレンジ精神に磨きをかけています。金沢大学では、COC+事業の終了後も、本アカデミーの実績を活かして正規科目のアントレプレナーシップ教育を拡充していくとともに、企業のスポンサーを得て、「いしかわ未来アカデミー」を継続していきます。

「継続はチカラなり」という言葉があるように、事業を継続することで「知の拠点化」をさらに進め、学生たちが「夢」と「志」を持って石川を魅力ある地域に創出する人材となることを確信しています。

金沢大学先端科学・社会共創推進機構 宇野 文夫
特任教授 COC+推進コーディネーター



いしかわ
学生定着
推進協議会

参加大学

金沢大学
金沢工業大学
石川県立看護大学
石川県立大学
金沢星稜大学
北陸大学
金沢学院大学
金城大学

協力大学

北陸先端科学技術大学院大学
金沢美術工芸大学
金沢医科大学
北陸学院大学
北陸学院大学短期大学部
金城大学短期大学部
公立小松大学
芝浦工業大学

参加自治体

石川県	金沢市
七尾市	小松市
輪島市	珠洲市
加賀市	羽咋市
かほく市	白山市
能美市	野々市市
川北町	津幡町
内灘町	志賀町
宝達志水町	中能登町
穴水町	能登町

参加企業・団体等

石川県商工会議所連合会
石川県商工会連合会
石川県中小企業団体中央会
石川県鉄工機電協会
石川県繊維協会
石川県食品協会
石川県情報システム工業会
石川県産業創出支援機構
特定非営利活動法人角間里山みらい
金沢森林組合
株式会社小松製作所粟津工場
公益社団法人大学コンソーシアム石川
能登キャンパス構想推進協議会
株式会社北陸銀行
株式会社北國銀行
株式会社北國新聞社
株式会社PFU
社会福祉法人佛子園

※順不同

〈事務局・お問い合わせ先〉

金沢大学研究・社会共創推進部地域共創推進課

〒920-1192 金沢市角間町

TEL:076-264-5271 FAX:076-234-4045

MAIL:chiiki@adm.kanazawa-u.ac.jp